

第5回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）

結果概要

多摩区版

目次

■ 調査の目的	- 1 -
■ 調査の設計	- 1 -
■ 概要を利用するにあたって	- 1 -
1. 回答者の基本属性	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について	- 8 -
3. 近隣地域とその課題について	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて	- 29 -
6. 東日本大震災後の意識の変化について	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について	- 36 -
8. 自由回答のまとめ	- 41 -
資料 アンケート調査票	- 61 -

調査の結果

■ 調査の目的

本調査は、川崎市地域福祉計画に基づいて、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第 6 期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

■ 調査の設計

【調査対象者】

市内在住の 20 歳以上の男女（外国人を含む）各区 900 人、全市合計 6,300 人

【調査時期】

令和元年 11 月 28 日～令和元年 12 月 20 日

【抽出方法】

住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出

【調査内容】

- ・基本属性
- ・『川崎市地域福祉計画』について
- ・居住地域について
- ・地域活動やボランティア活動について
- ・保健・福祉に関することについて
- ・東日本大震災後の意識の変化について
- ・今後の地域福祉の推進について

■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中の n とは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答は n を 100%として百分率で算出してある。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超える。

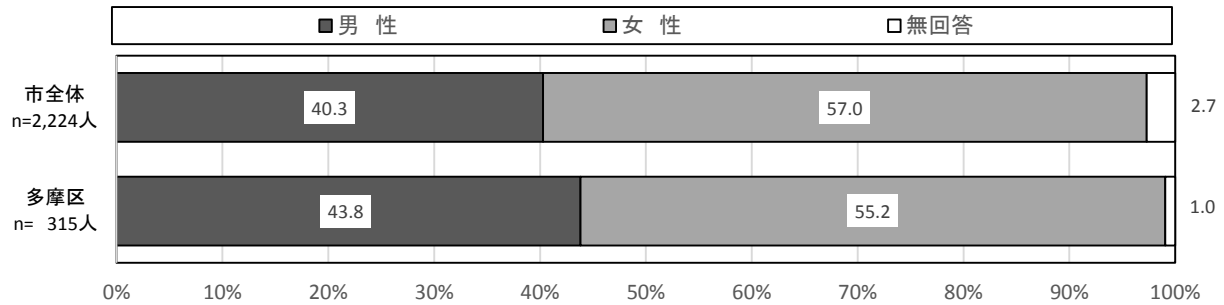
【回収率】

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	900	900	900	900	900	900	900	-	6,300
有効回収数（人）	278	305	315	293	323	315	368	27	2,224
有効回収率	30.9%	33.9%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%
（参考） 第 4 回収率	34.1%	40.4%	36.4%	35.4%	41.8%	34.1%	43.5%	-	37.9%

1. 回答者の基本属性

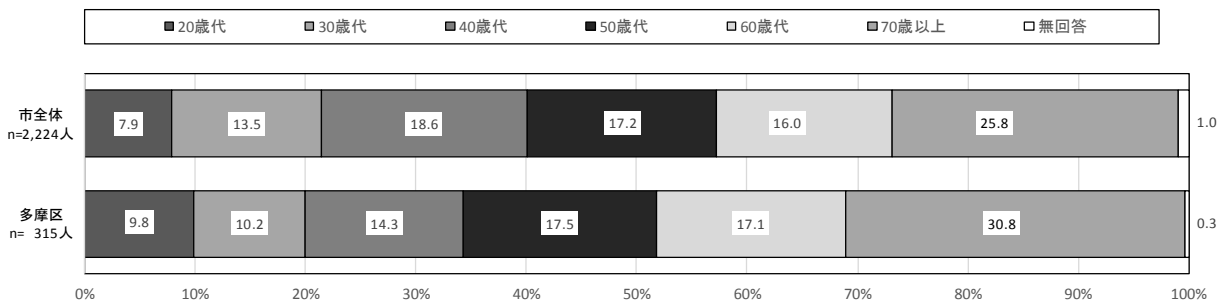
問1 性別を教えてください。(1つに○)

多摩区では、男性が43.8%、女性が55.2%となっている。



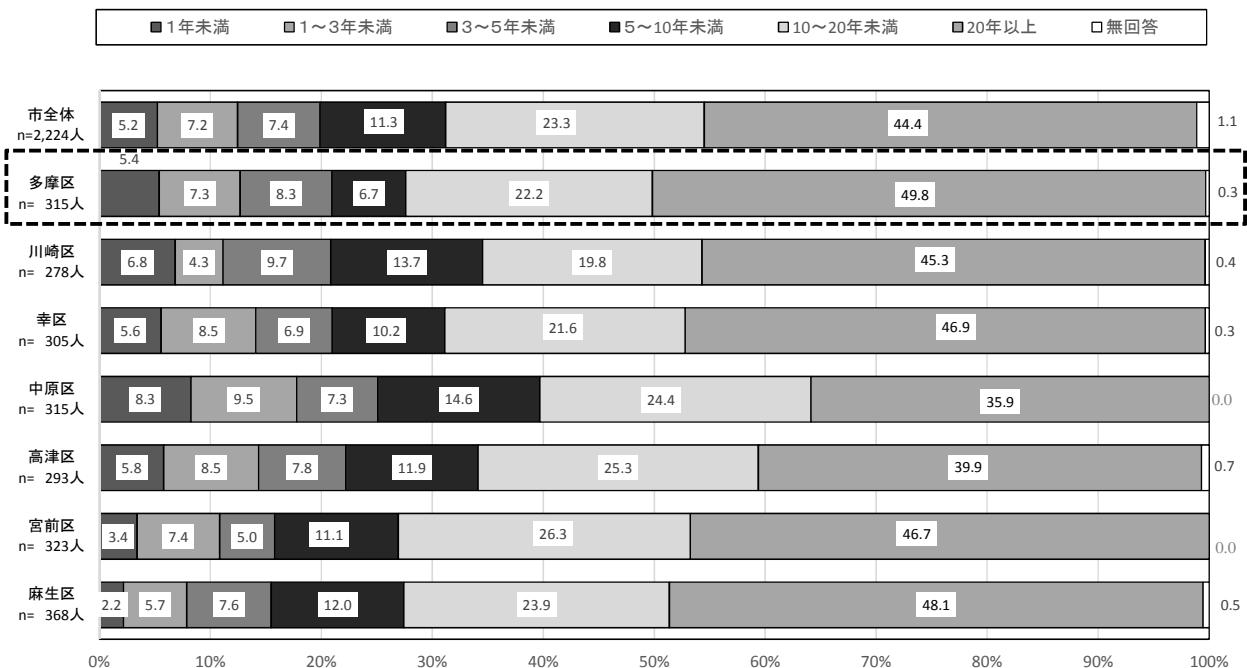
問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに○)

多摩区では、70歳以上が30.8%で最も高く、次いで50歳代(17.5%)、60歳代(17.1%)となっている。



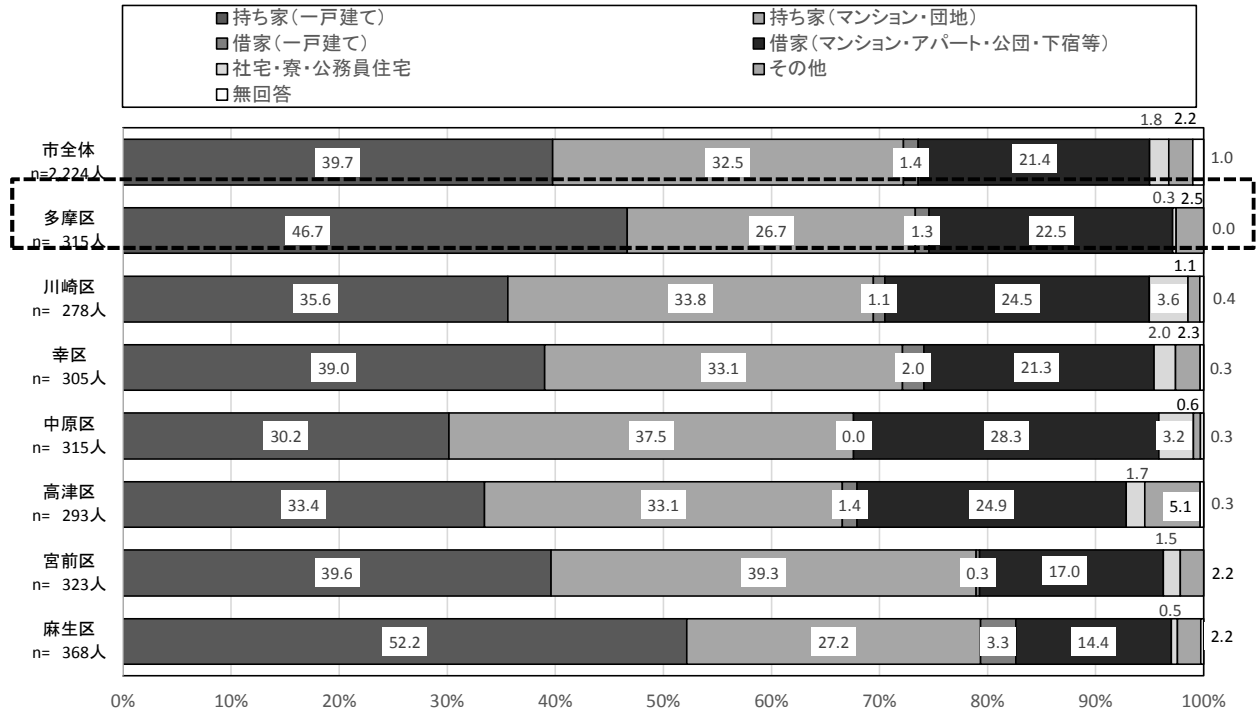
問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに○)

多摩区では、20年以上が49.8%で最も高く、次いで10~20年未満(22.2%)、3~5年未満(8.3%)となっている。市内6区と比較すると、10年以上の割合(10~20年未満と20年以上を合わせた割合)が72.0%で、宮前区(73.0%)に次いで高くなっている。



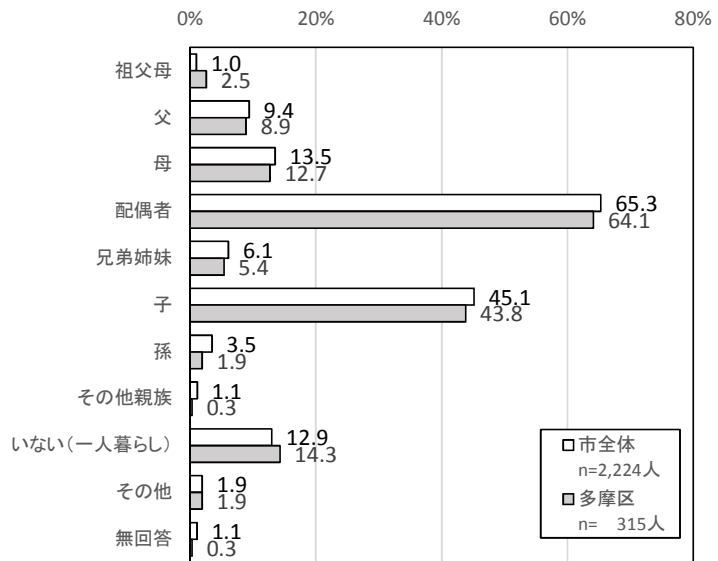
問6 現在お住まいの形態を教えてください。(1つに〇)

多摩区では、持ち家(一戸建て)の割合が46.7%で、市全体(39.7%)を7.0ポイント上回っている。市内6区と比較すると、持ち家(一戸建て)と持ち家(マンション・団地)を合わせた持ち家の割合が73.4%で市全体の割合よりもやや高く、特に持ち家(一戸建て)の割合は、麻生区に次いで2番目に高い。

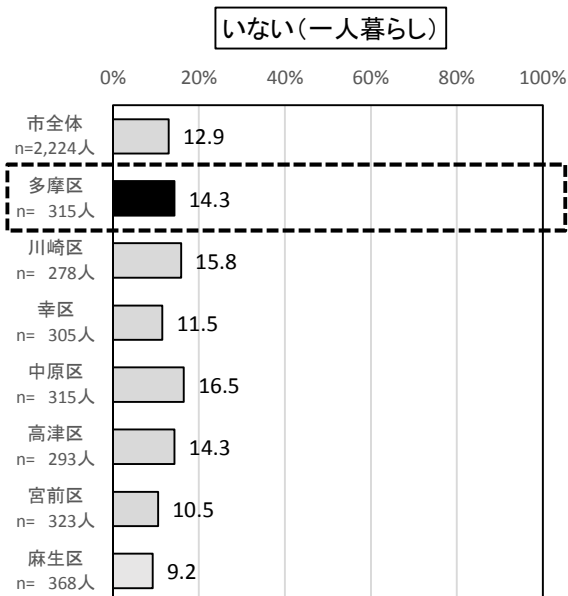
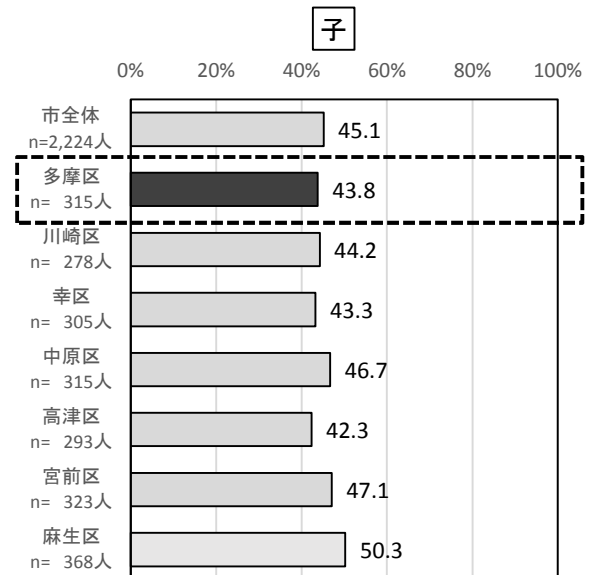
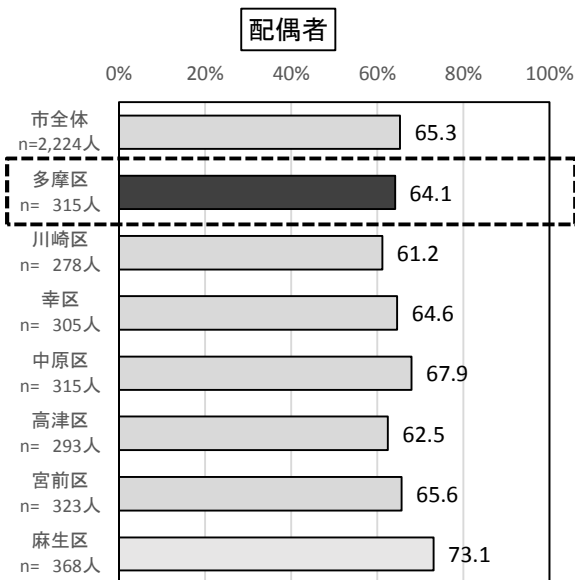


問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

多摩区では、「配偶者」が64.1%で最も多く、市全体(65.3%)よりやや低い。「子」は43.8%で市全体(45.1%)よりやや低い。一方、「いない(一人暮らし)」は14.3%で、市全体(12.9%)の割合よりも高い。

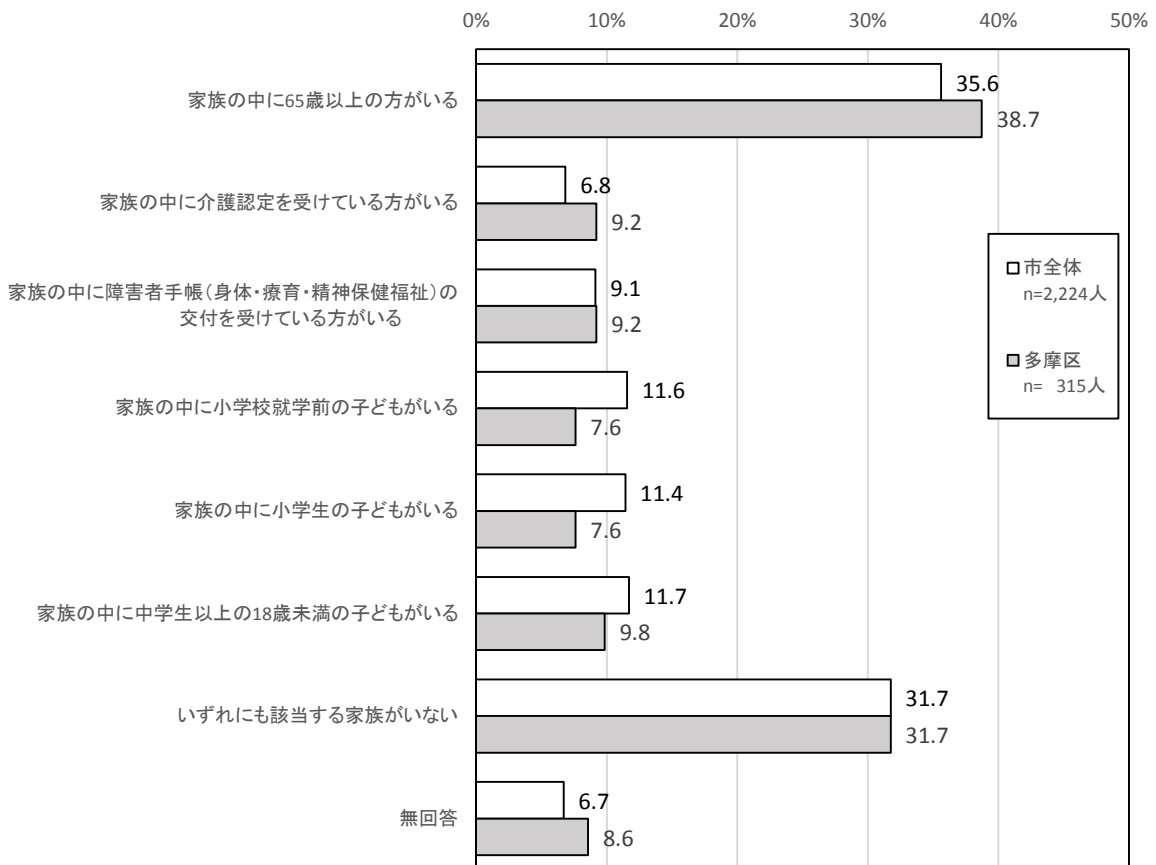


【参考】

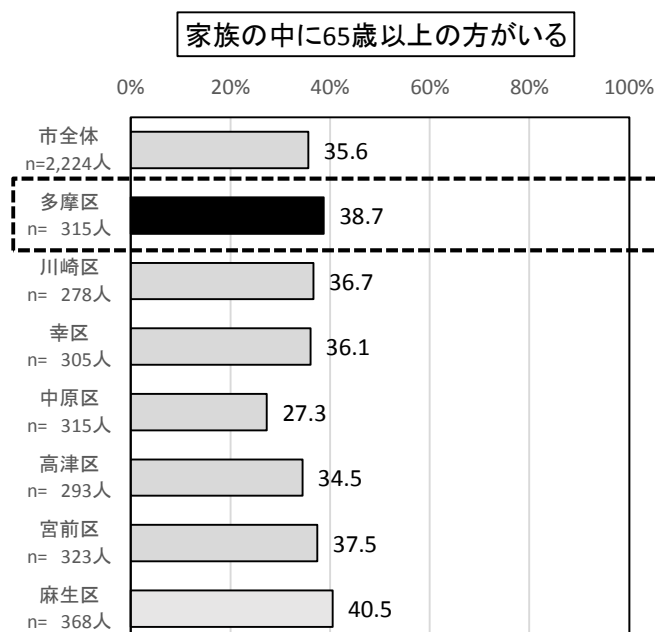


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。
 （あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「家族の中に65歳以上の方がいる」が38.7%で市全体（35.6%）を上回っている。市内6区と比較すると、「家族の中に65歳以上の方がいる」割合は38.7%で麻生区に次いで2番目に多い。



【参考】



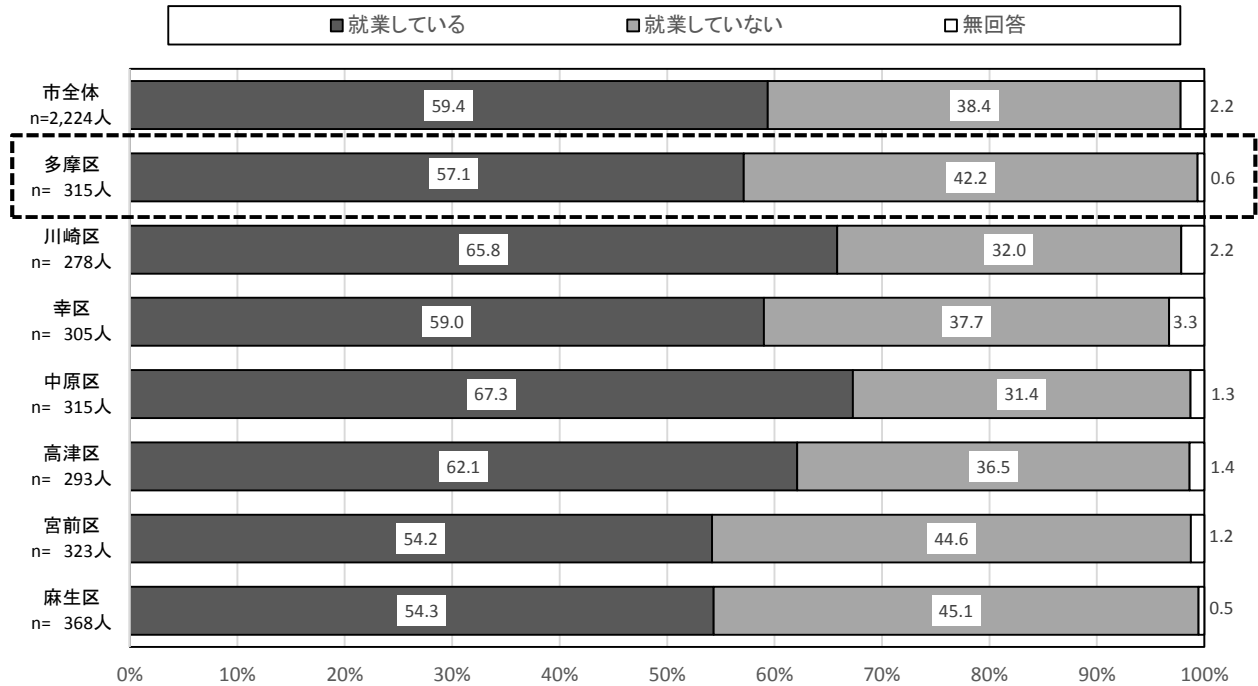
問9 就業の状況はどれに該当しますか。(1つに○)

多摩区では、就業している割合が57.1%で市全体(59.4%)を下回っている。

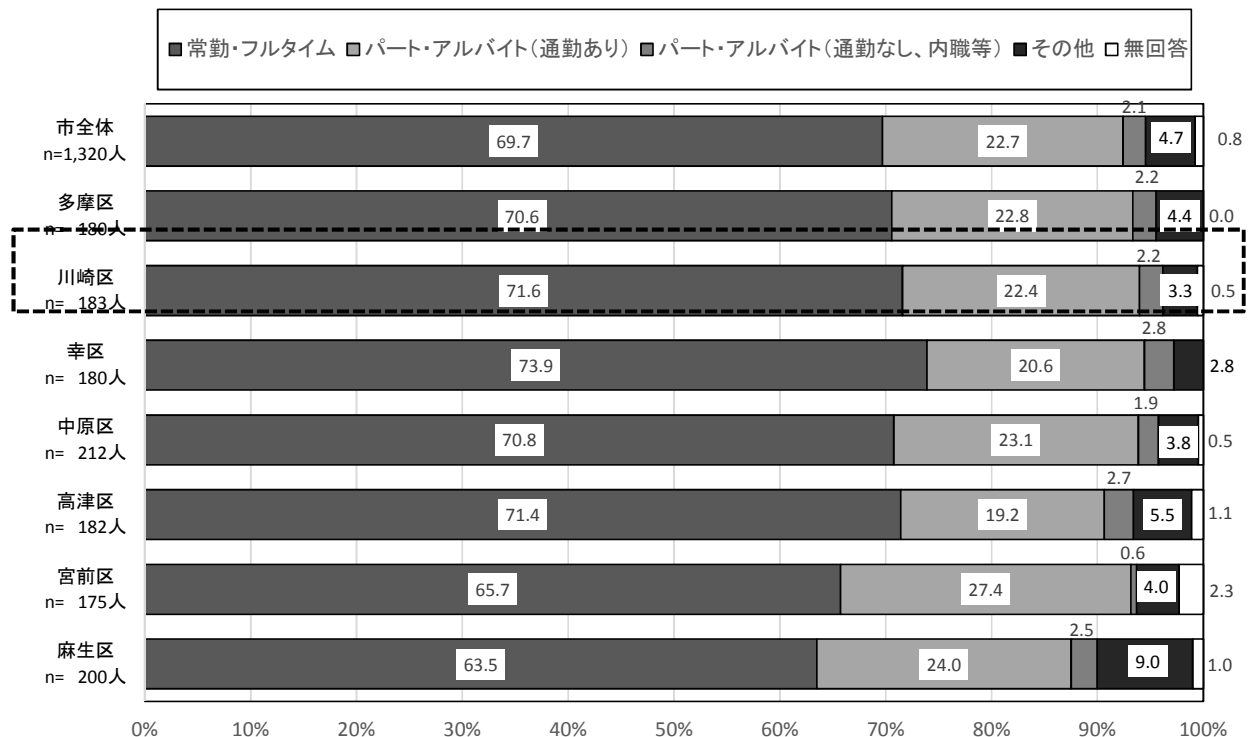
市内6区と比較すると、就業している割合は宮前区、麻生区に次いで低くなっている。

就業形態については、常勤・フルタイムが70.6%で市全体(69.7%)より0.9ポイント高い。市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は3番目に低い。

ア. 就業状況

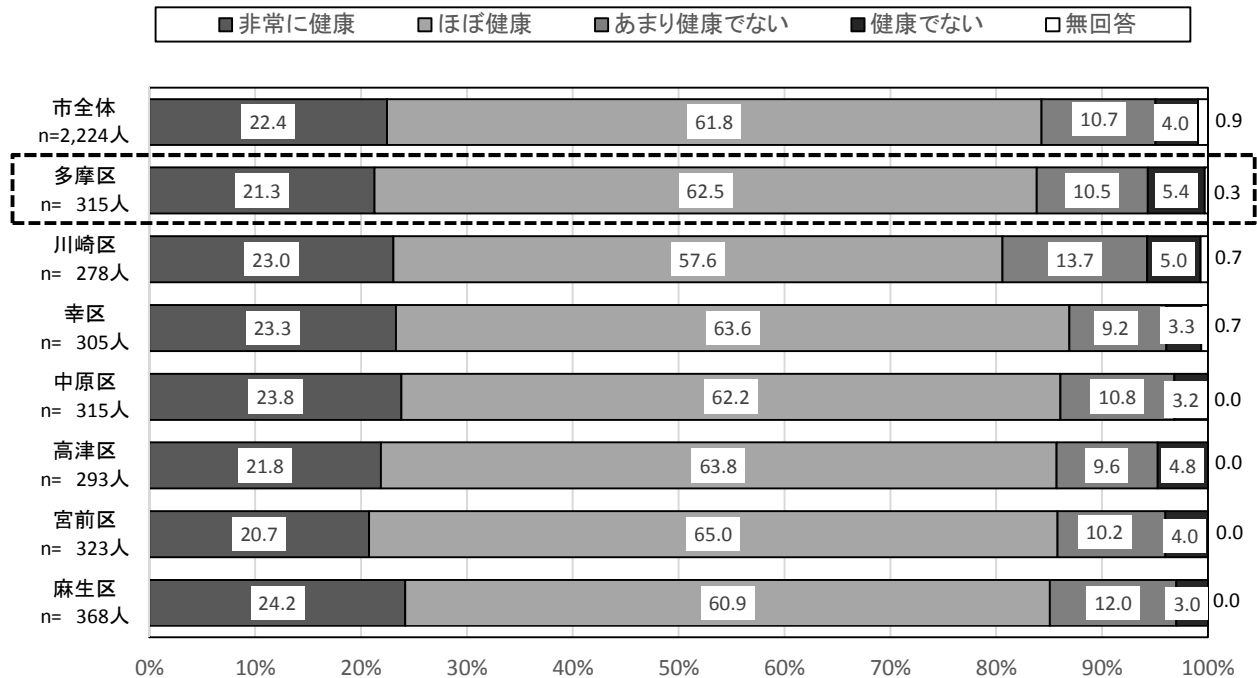


イ. 就業形態



問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

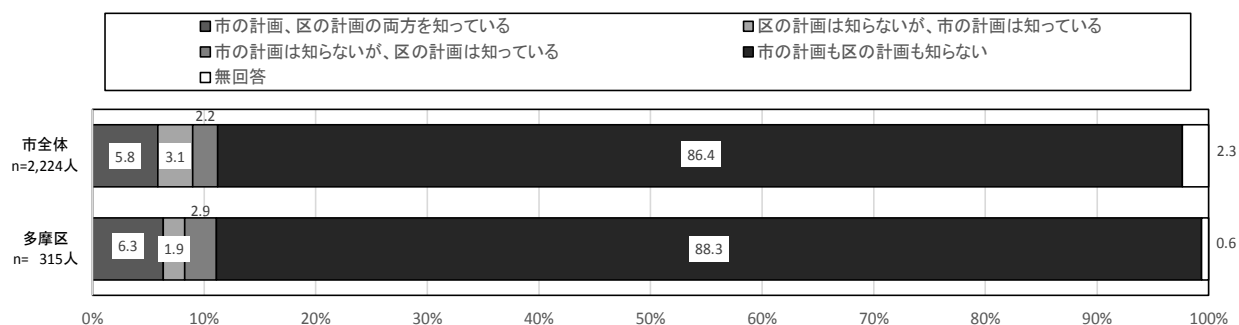
多摩区では、健康状態が「ほぼ健康」の方が62.5%で市全体(61.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「ほぼ健康」(62.5%)、「非常に健康」(21.3%)を合わせた割合が83.8%で2番目に低くなっている。



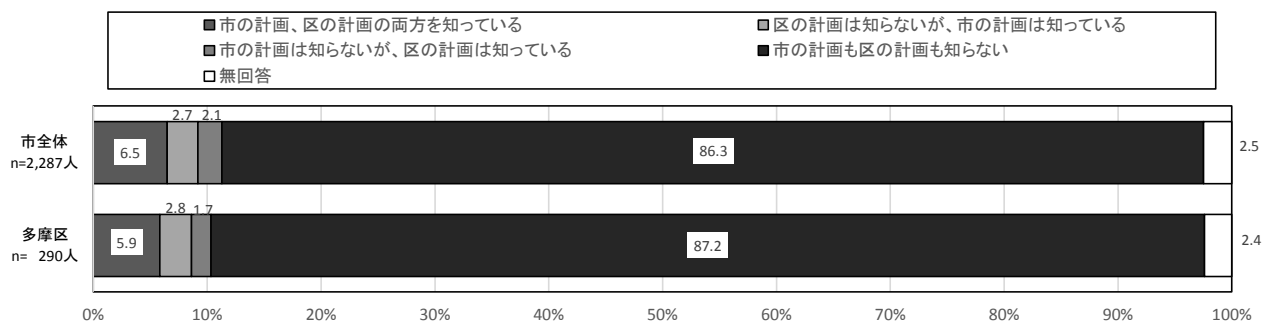
2. 『川崎市地域福祉計画』について

問 12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

多摩区では、「市の計画も区の計画も知らない」割合が88.3%となっている。第4回調査結果と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」割合は1.1ポイント増加している。



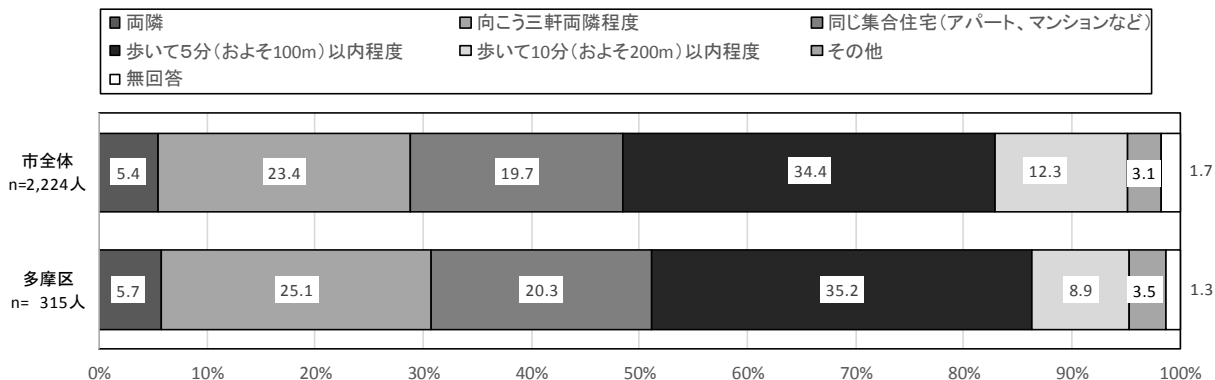
【参考】第4回調査結果



3. 近隣地域とその課題について

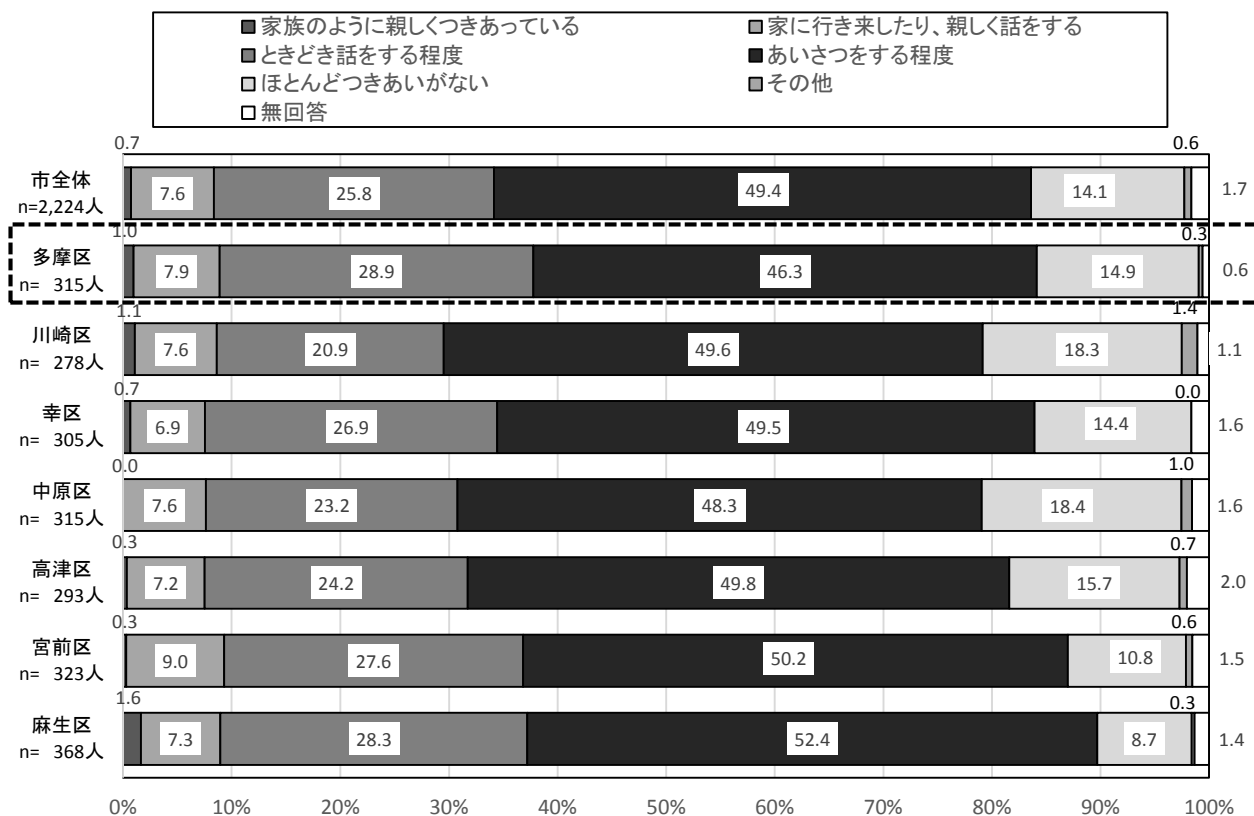
問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

多摩区では、「歩いて5分(およそ100m)以内程度」の割合が35.2%でもっとも多く、次いで「向こう三軒両隣」が25.1%であった。



問14 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

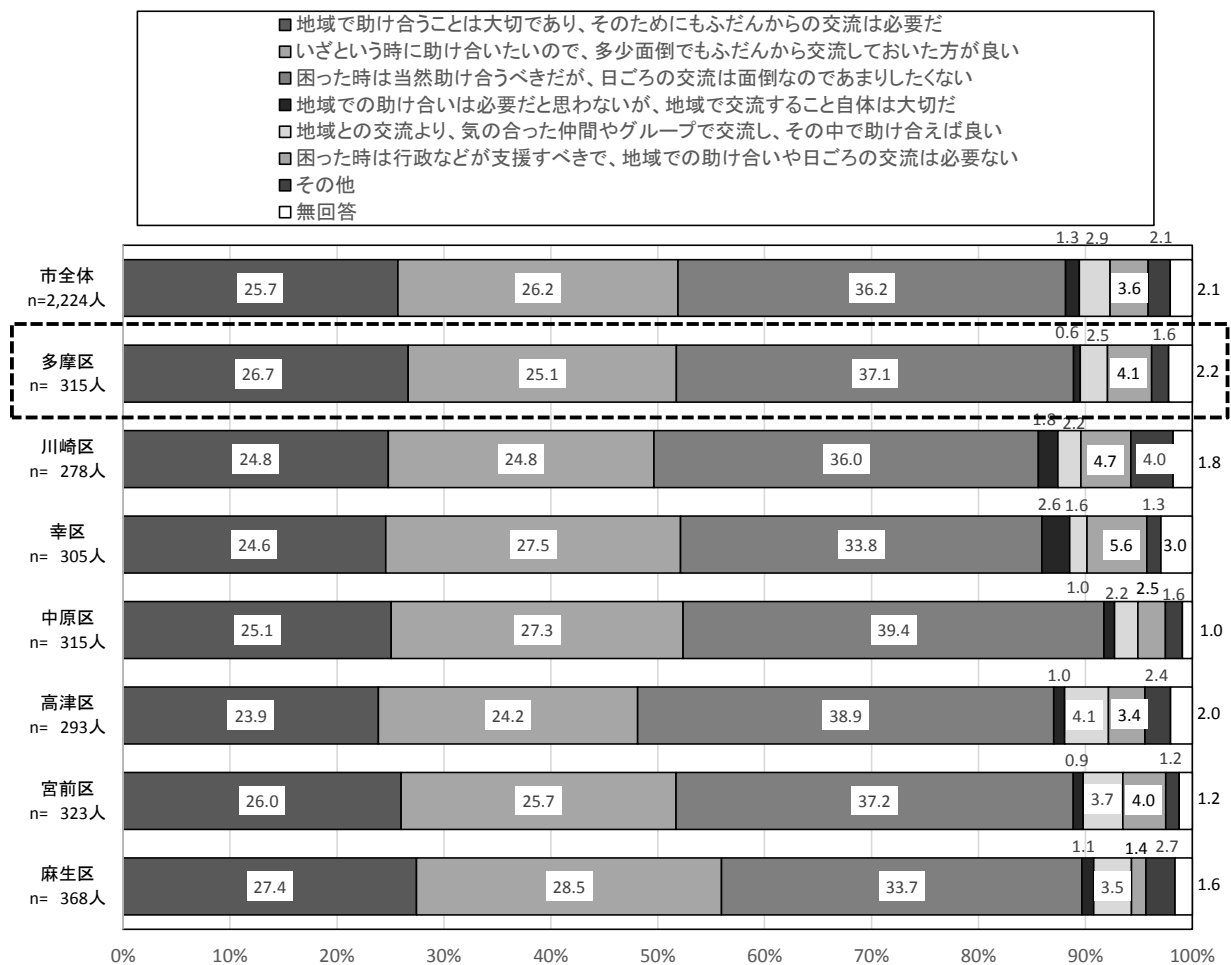
多摩区では、市内6区と比較すると、「家族のように親しくつきあっている」、「家に行き来したり、親しく話をする」「ときどき話をする程度」を合わせた割合は37.8%で、市内6区で最も高くなっている。



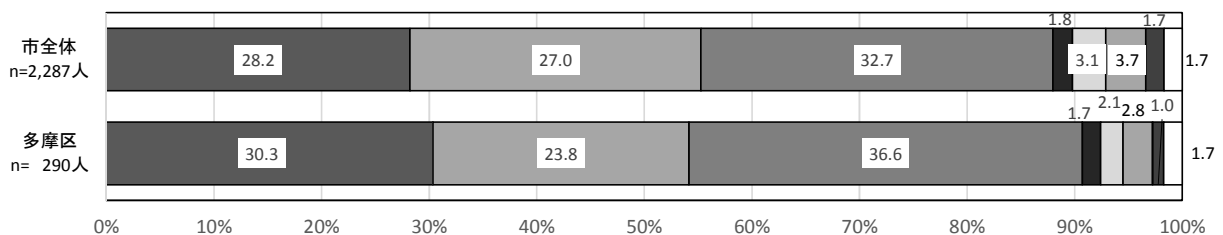
問 15 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。（1つに○）

多摩区では、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合が26.7%で市全体（25.7%）をやや上回っている。市内6区と比較すると、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合は平均的で、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」を合わせた割合は51.8%であった。「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合は37.1%で市全体よりも高い。

また、第4回調査結果と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合が3.6ポイント減少し、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合が1.3ポイント増加している。

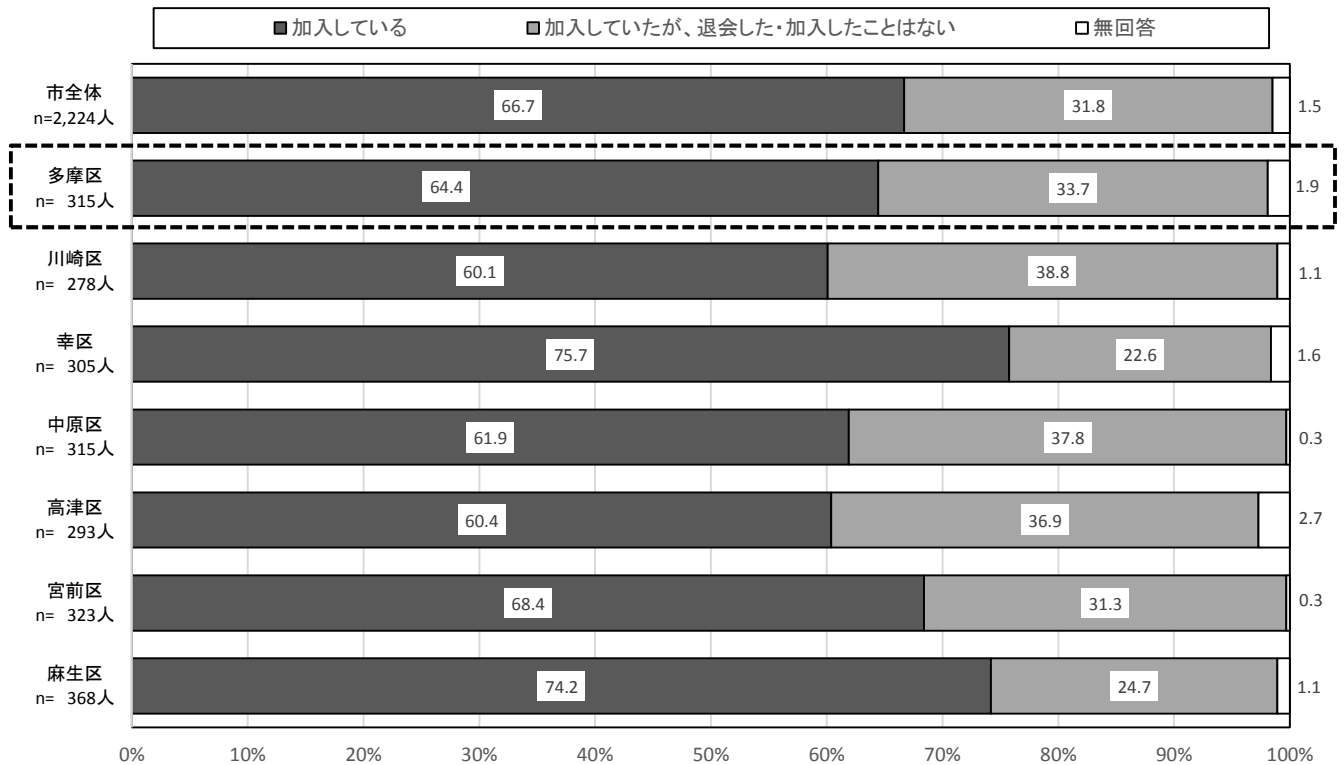


【参考】第4回調査結果



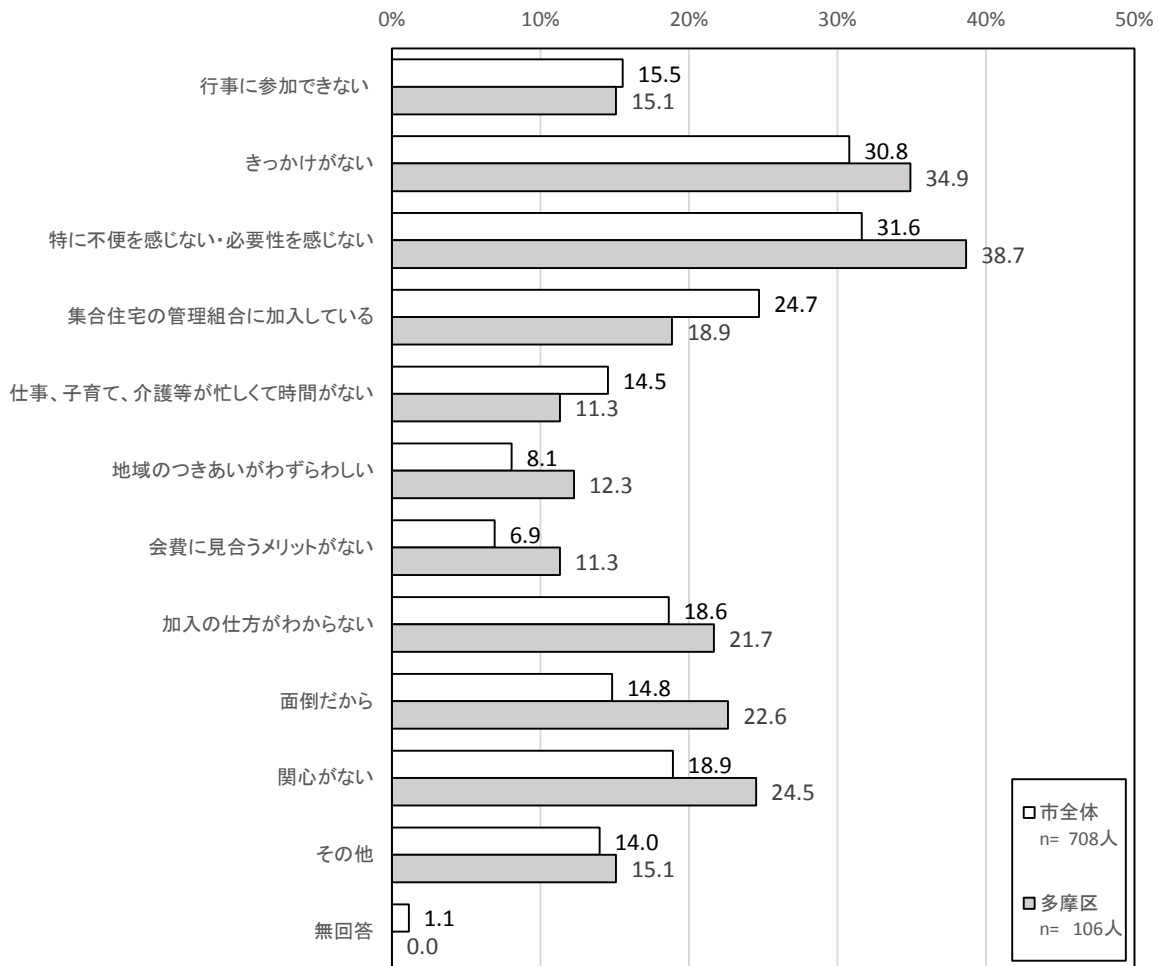
問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

多摩区では、「加入している」割合が64.4%で市全体(66.7%)をやや下回っている。



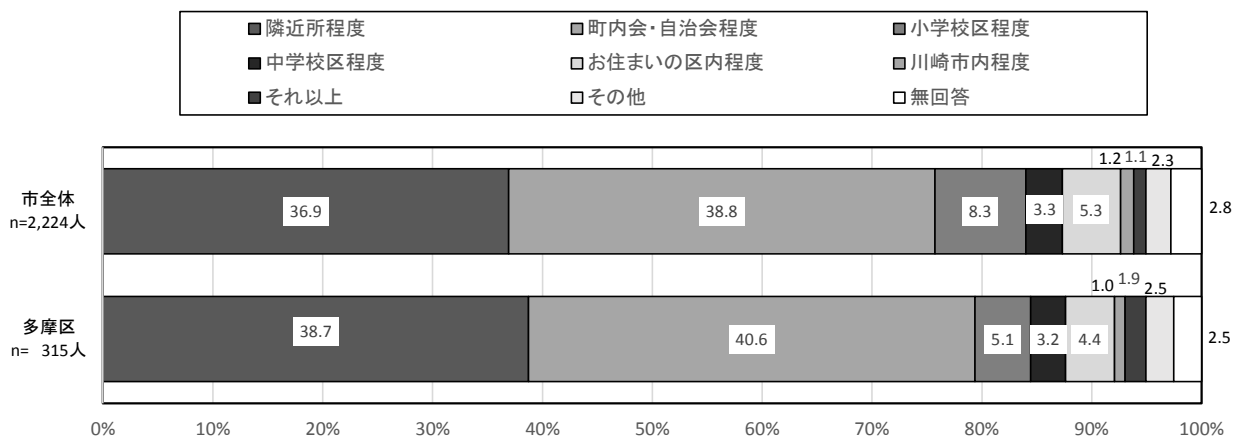
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「特に不便を感じない・必要性を感じない」の割合が 38.7%で市全体（31.6%）を上回っている。



問 17 あなたは、助けあいをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

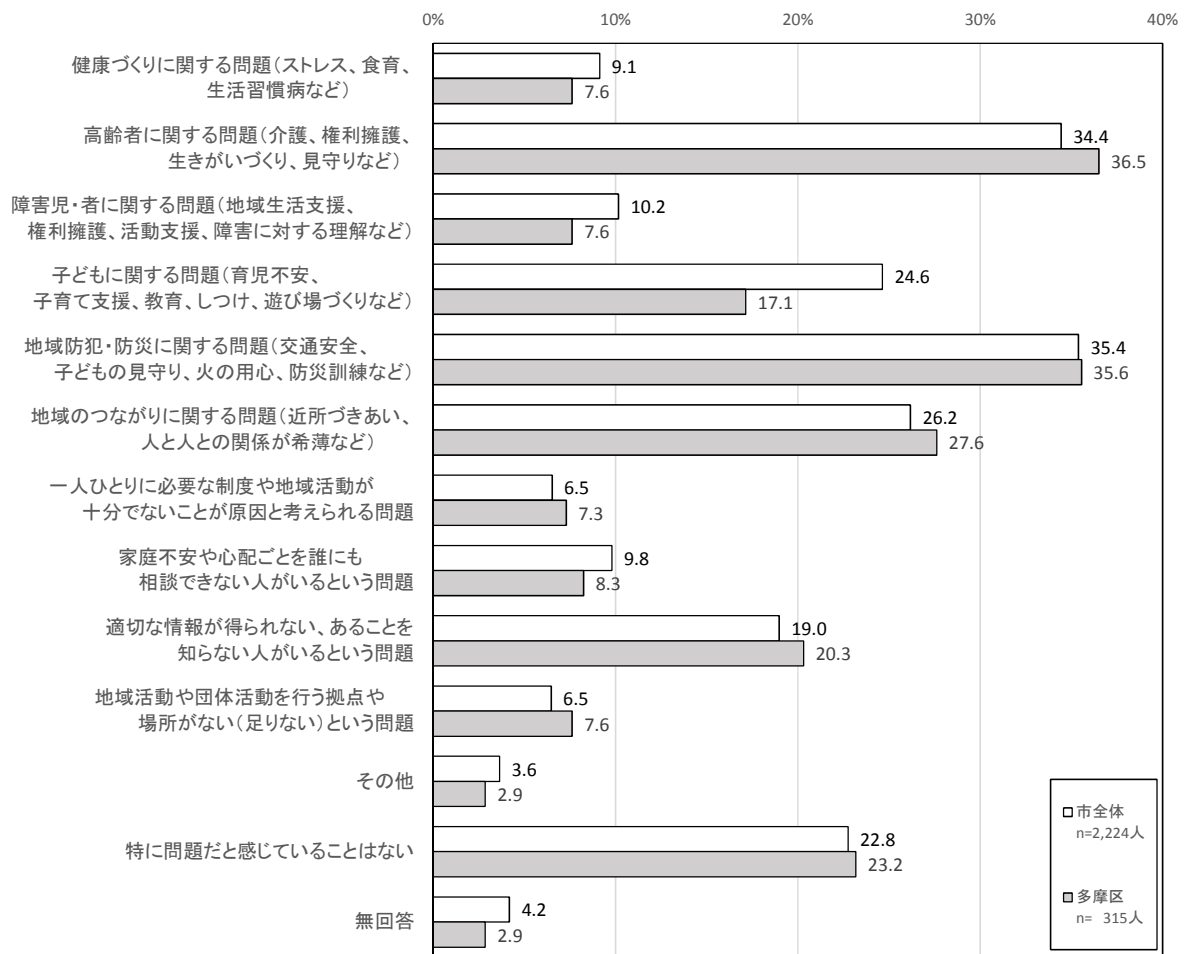
多摩区では、「町内会・自治会」の割合が 40.6%で市全体（38.8%）を上回っている。



問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

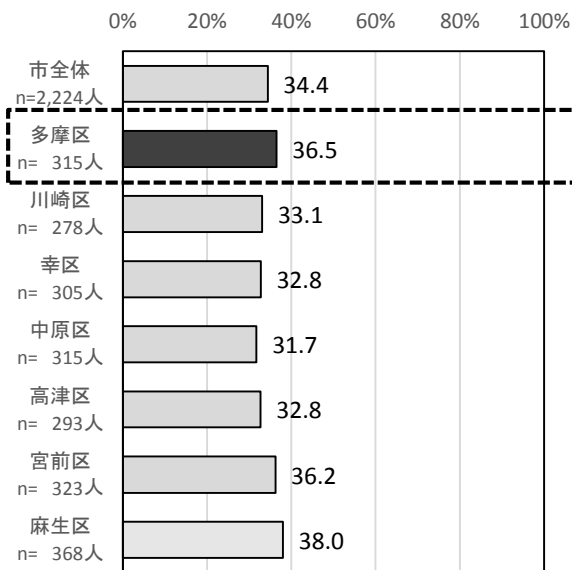
多摩区では、「高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)」の割合が36.5%で最も高く、次いで「地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)」(35.6%)、「地域のつながりに関する課題(近所づきあい、人と人との関係性が希薄など)」の割合が27.6%となっている。

市内6区で比較すると、「高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)」(36.5%)、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題」(20.3%)については2番目に高く、「地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)」については35.6%で、4番目に高くなっている。

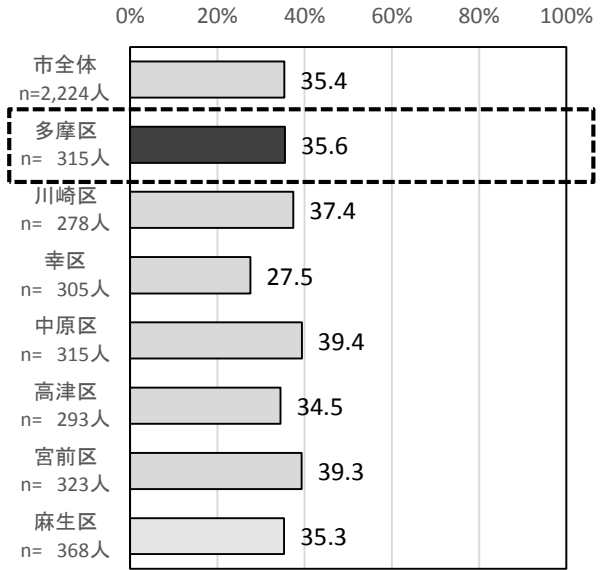


【参考】

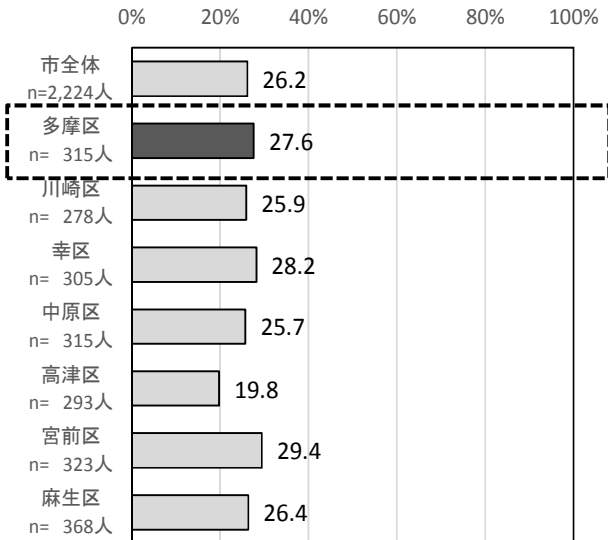
高齢者に関する問題



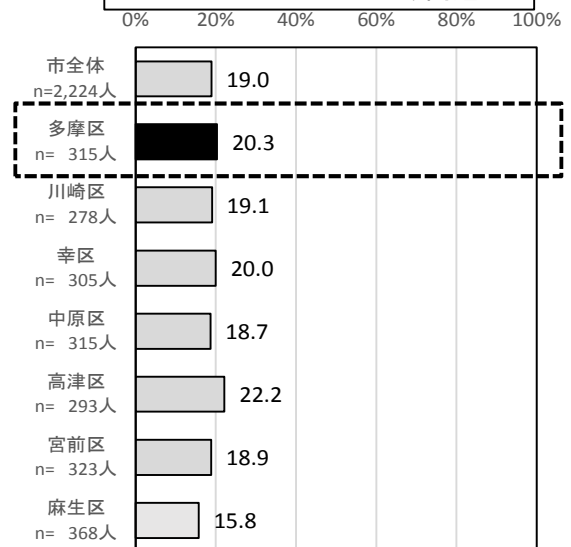
地域防犯・防災に関する問題



地域のつながりに関する問題

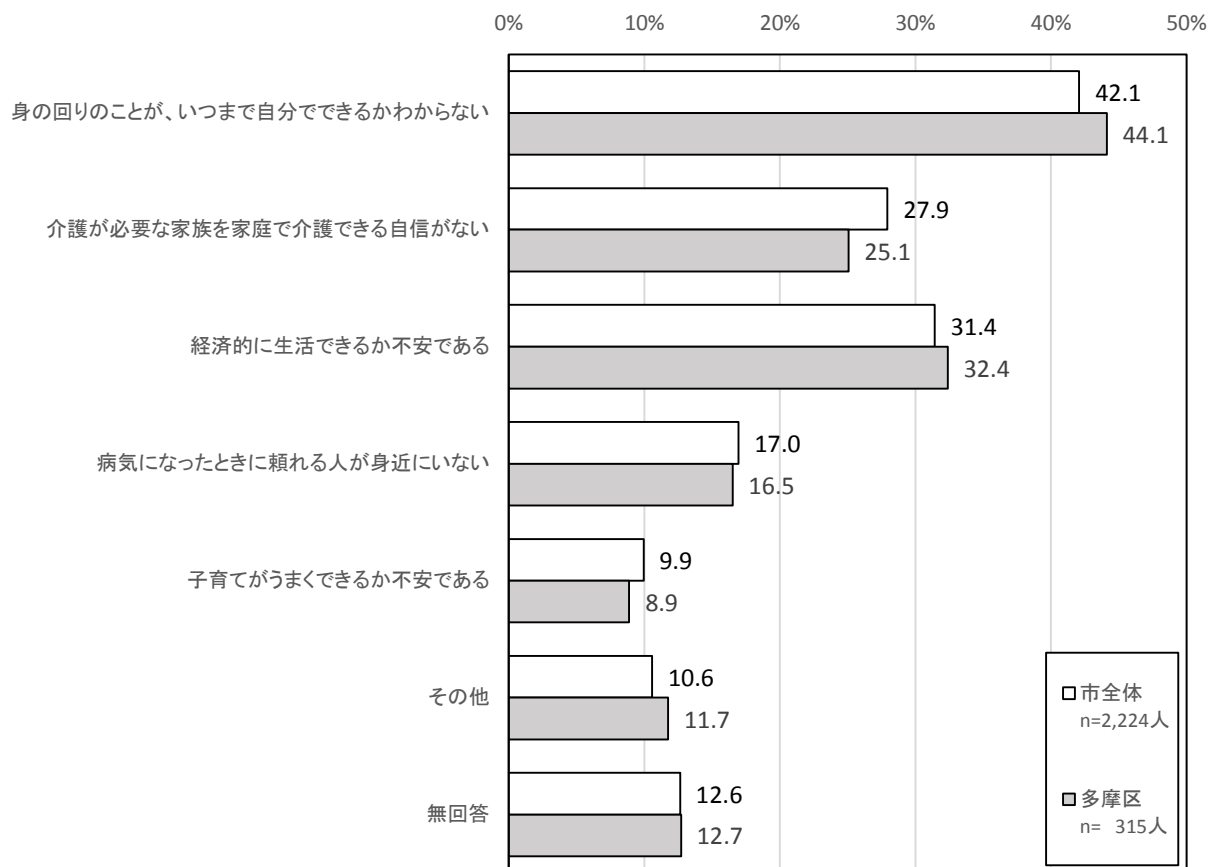


適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題



問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

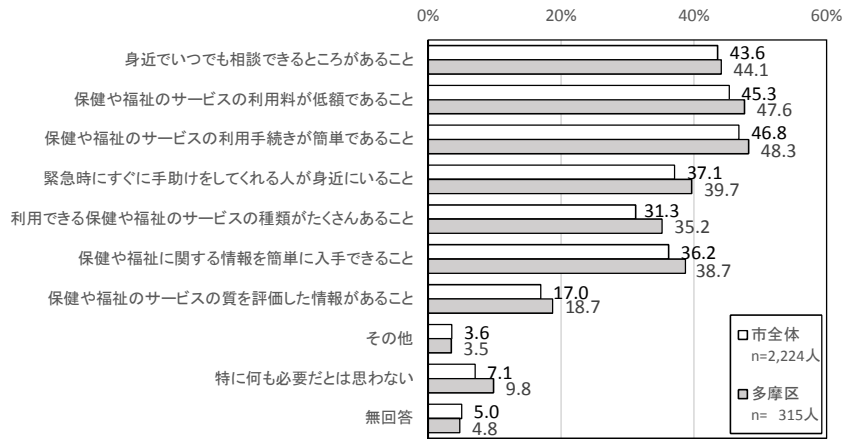
多摩区では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」ことに対する不安を感じる割合が44.1%で最も高く、次いで「経済的に生活できるか不安である」が(32.4%)、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」が(25.1%)であった。



問 20 あなたの心配事を解決するために必要だと思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

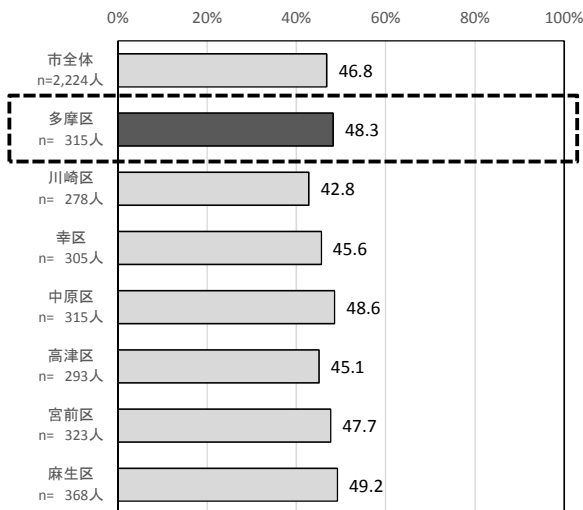
多摩区では、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」が48.3%で、市全体(46.8%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」は48.3%で3番目に高い。また、「保健や福祉のサービスの利用手続きが低額であること」(47.6%)、「身近でいつでも相談できるところがあること」(44.1%)で2番目に高くなっている。

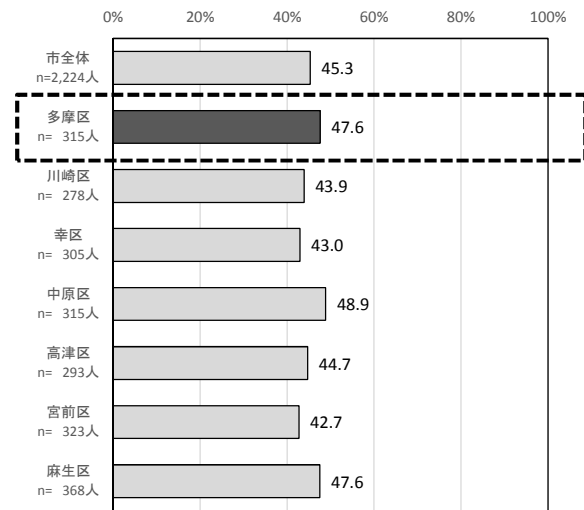


【参考】

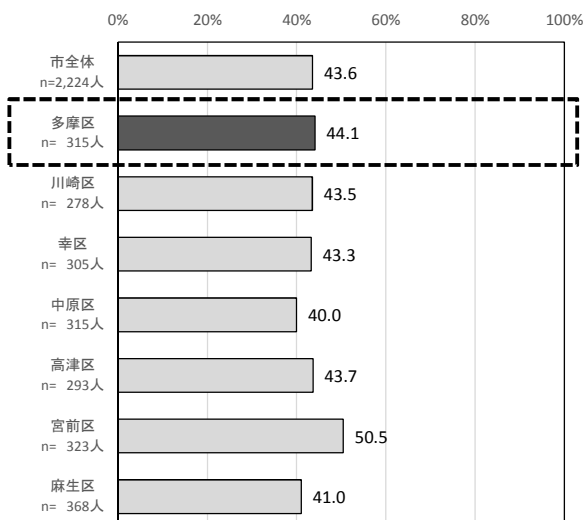
保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること



保健や福祉のサービスの利用手続きが低額であること



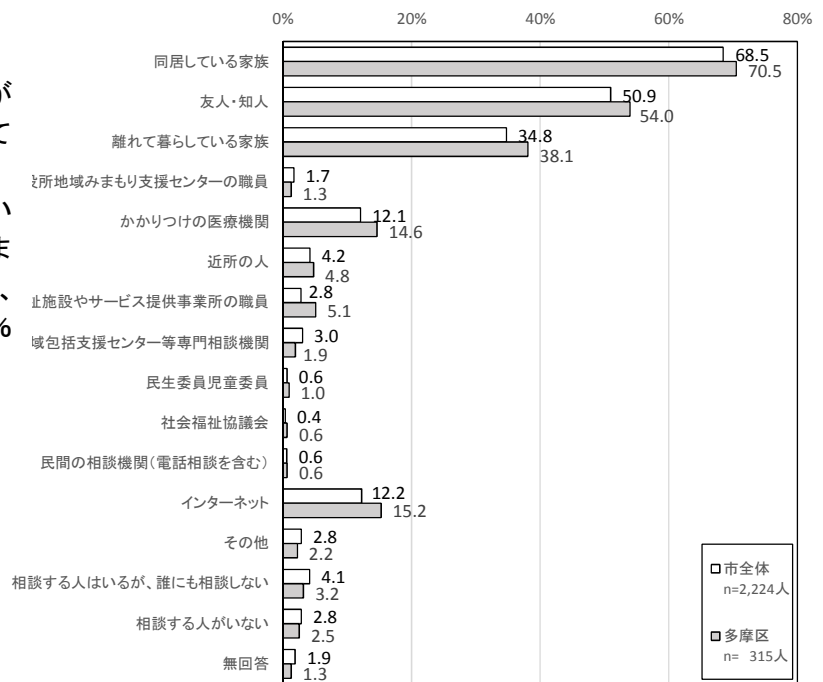
身近でいつでも相談できるところがあること



問21 あなたは、日常生活で心配事や悩み事があるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

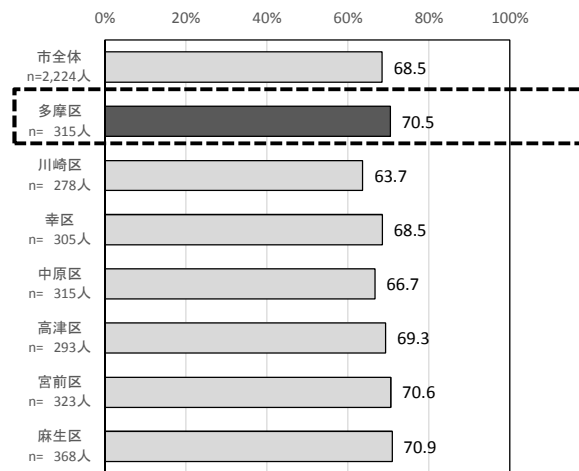
多摩区では、「同居している家族」が70.5%で、市全体(68.5%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「同居している家族」は70.5%で3番目に高い。また、「友人・知人」は54.0%と最も高く、「離れて暮らしている家族」は38.1%と2番目に高くなっている。

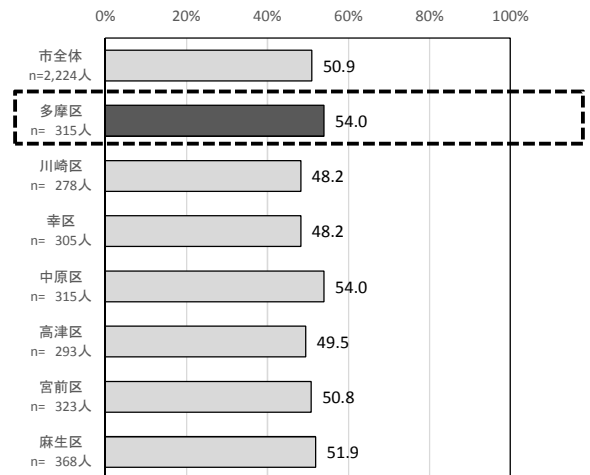


【参考】

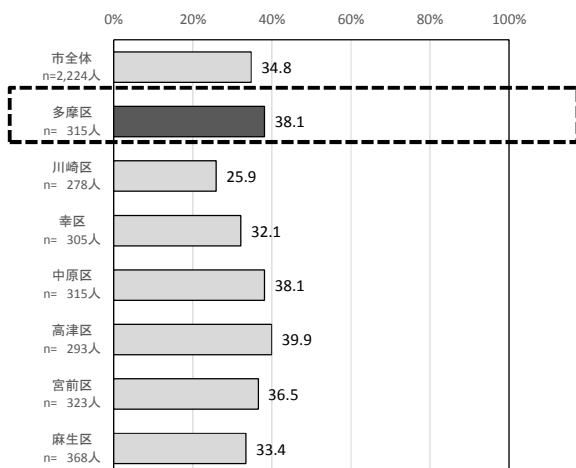
同居している家族



友人・知人



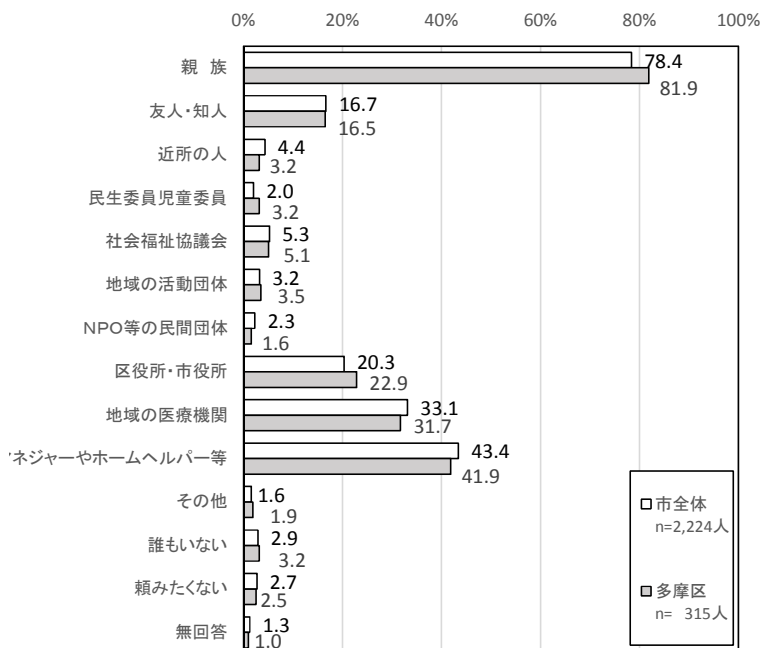
離れて暮らしている家族



問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

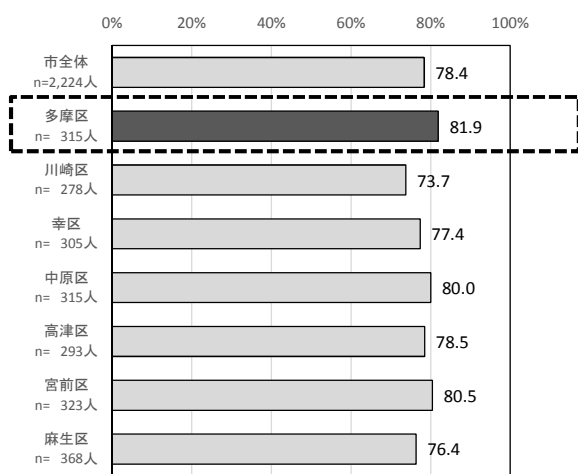
多摩区では、「親族」が81.9%で、市全体(78.4%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「親族」が81.9%で最も高い。また、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」が41.9%で2番目に低く、「地域の医療機関」が31.7%で4番目に高くなっている。

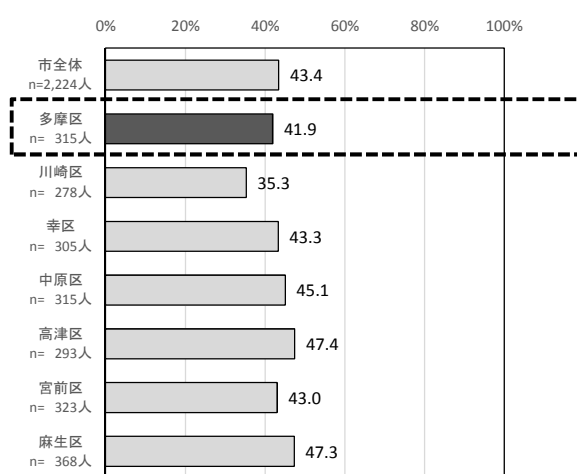


【参考】

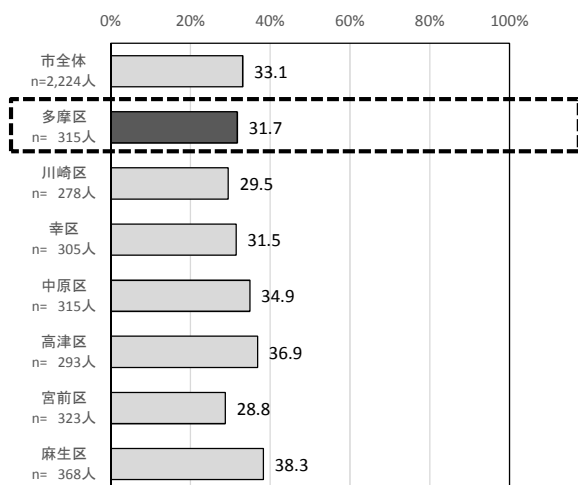
親族



ケアマネジャーやホームヘルパー等



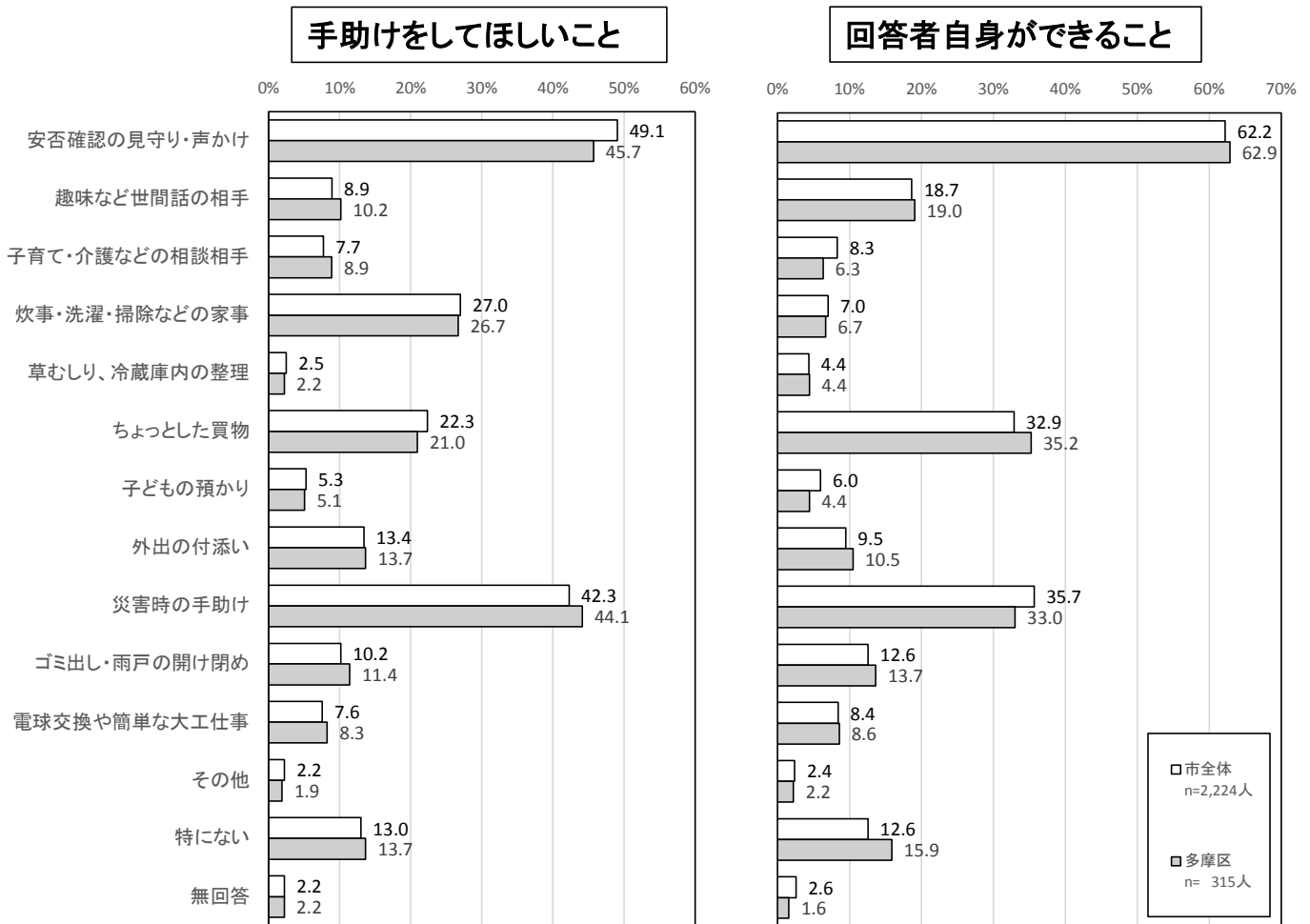
地域の医療機関



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）

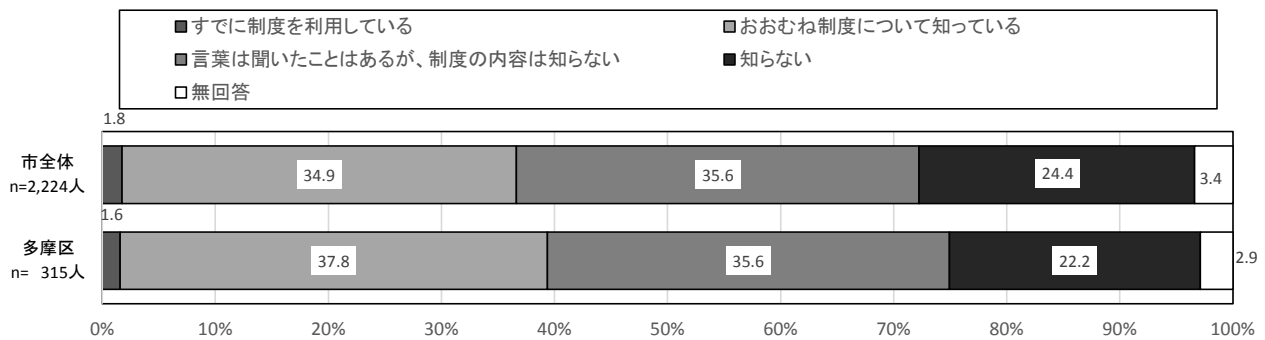
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）

多摩区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が45.7%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（44.1%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（26.7%）となっており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が62.9%で最も高く、次いで「ちょっとした買い物」（35.2%）「災害時の手助け」（33.0%）となっている。



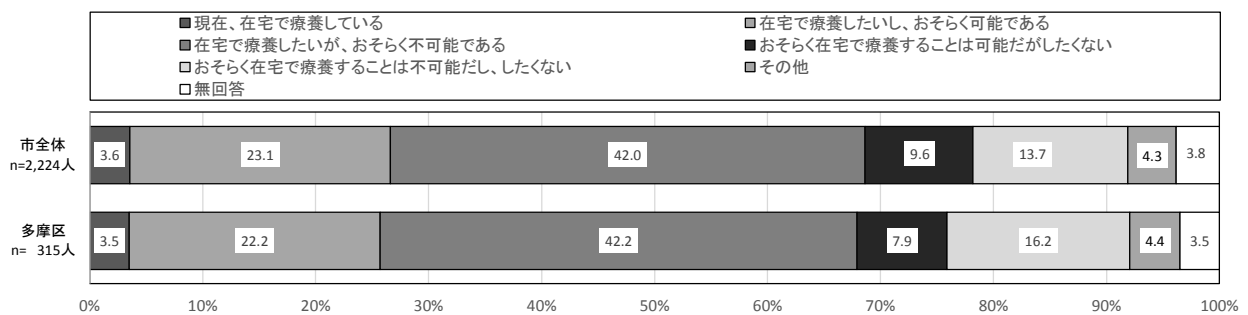
問 26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○) (新規設問)

多摩区では、「おおむね制度について知っている」の割合が37.8%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」(35.6%)、「知らない」(22.2%)となっている。



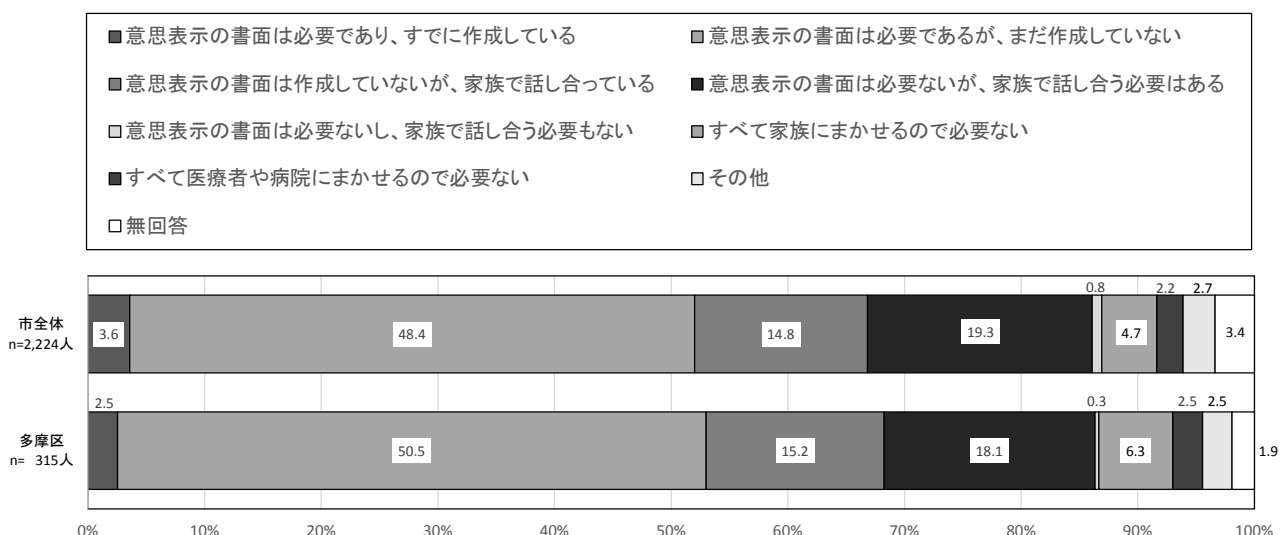
問 27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○) (新規設問)

多摩区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が42.2%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」(22.2%)、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」(16.2%)となっている。



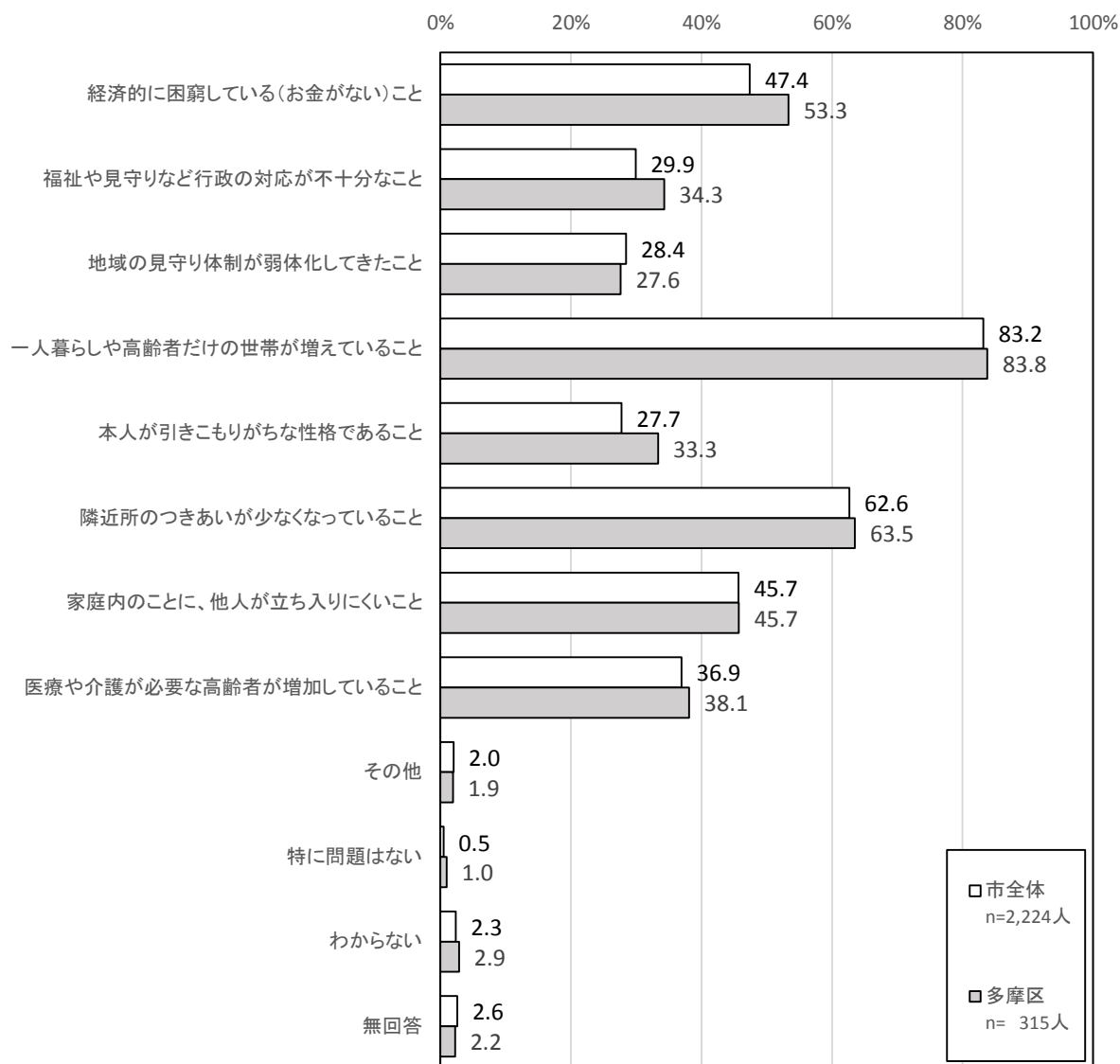
問 28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。(1つに○) (新規設問)

多摩区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が50.5%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」(18.1%)、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」(15.2%)となっている。



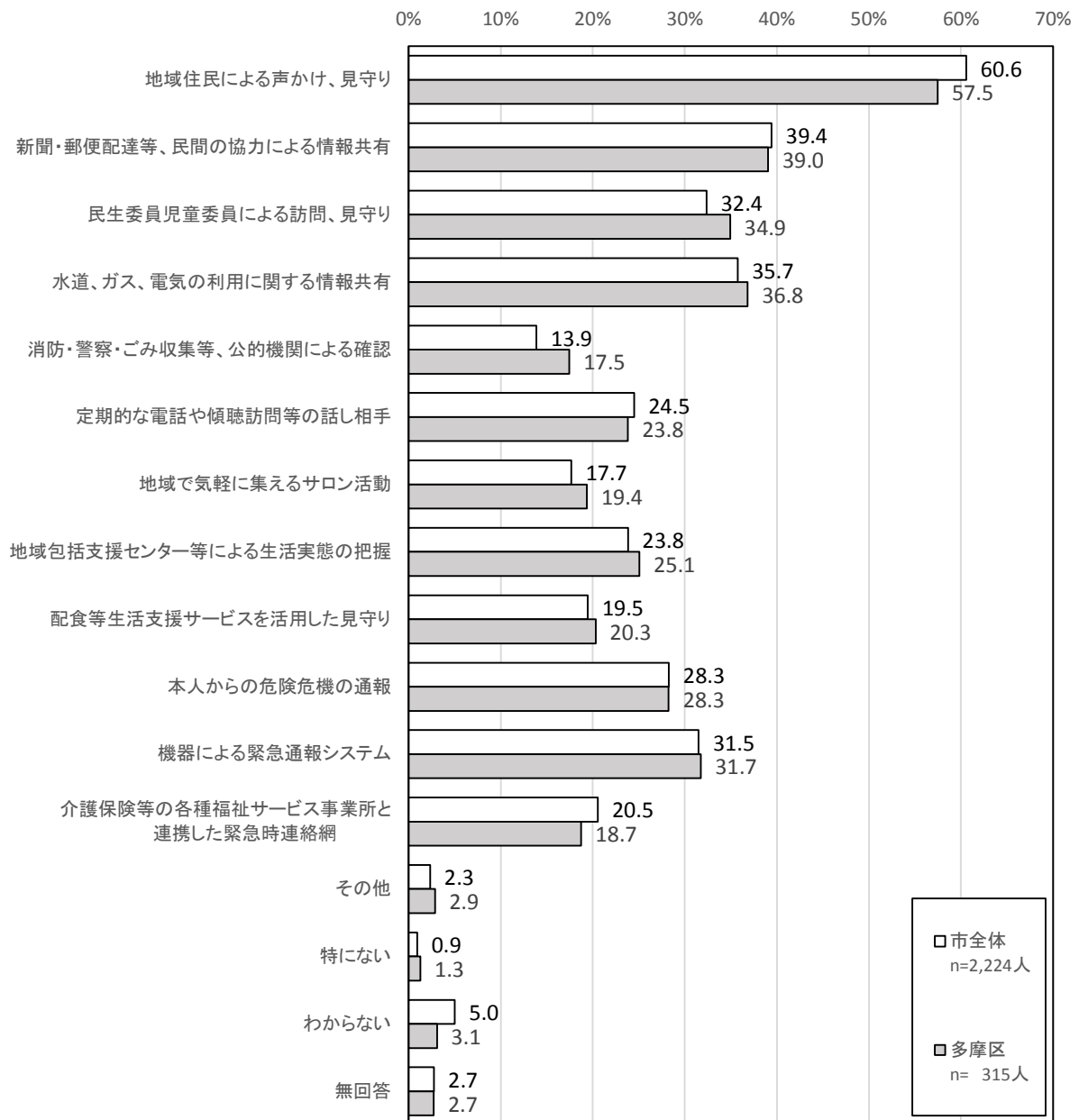
問 29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること」の割合が83.8%で最も高く、次いで「隣近所のつきあいが少なくなっていること」（63.5%）、「経済的に困窮していること」（53.3%）となっている。



問 30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

多摩区では、「地域住民による声かけ、見守り」の割合が57.5%で最も高く、次いで「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(39.0%)、「水道、ガス、電気の利用に関する情報共有」(36.8%)となっている。

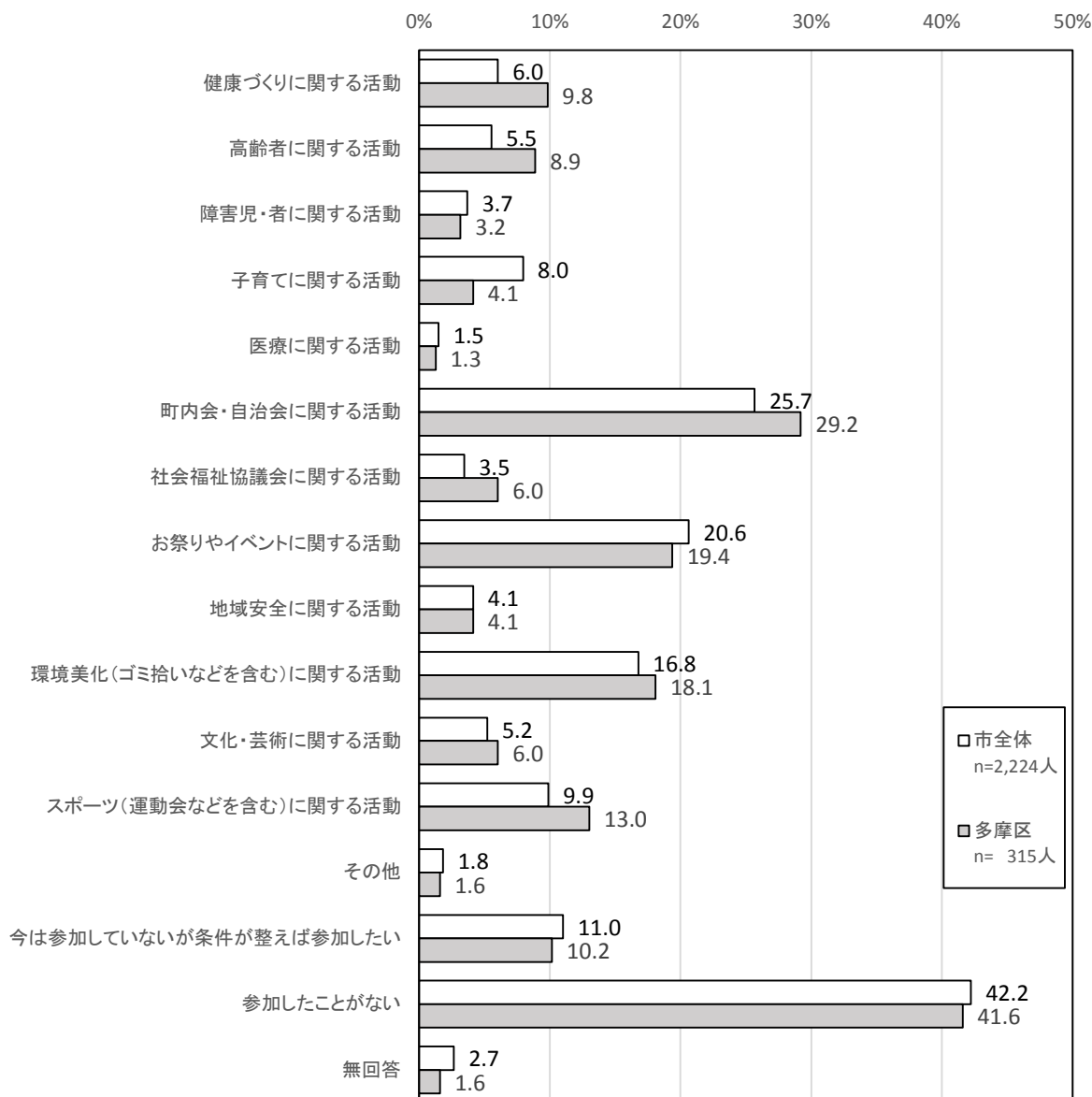


4. 地域活動やボランティア活動について

問 31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

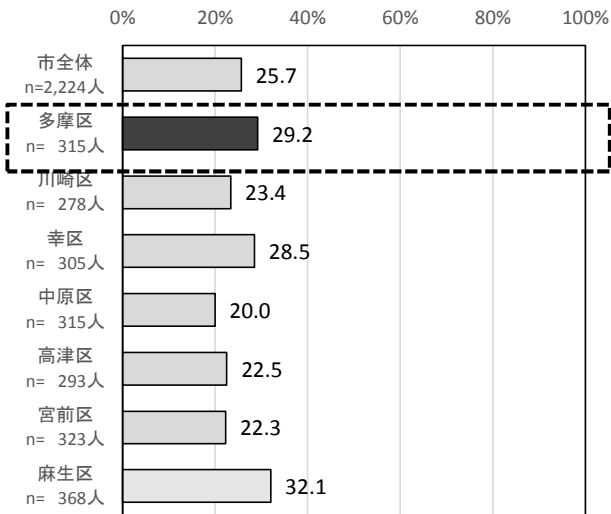
多摩区では、「参加したことがない」の割合が41.6%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（29.2%）、「お祭りやイベントに関する活動」（19.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「社会福祉協議会に関する活動」（6.0%）については最も高く、「町内会・自治会に関する活動」（29.2%）、「環境美化に関する活動」（18.1%）については2番目に高い。また、「参加したことがない」の割合は41.6%で3番目に低い。

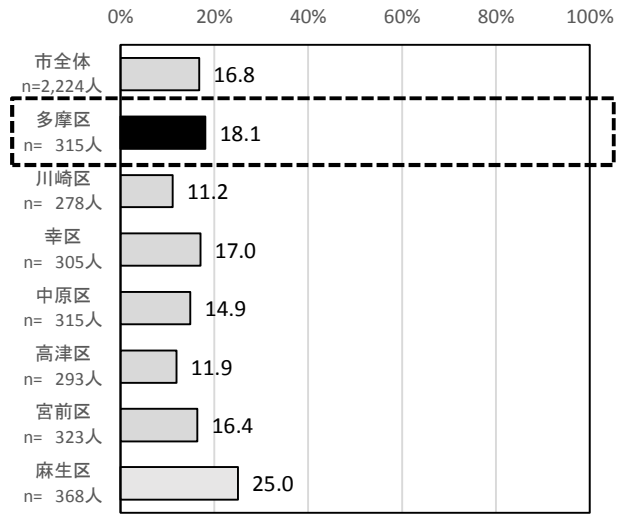


【参考】

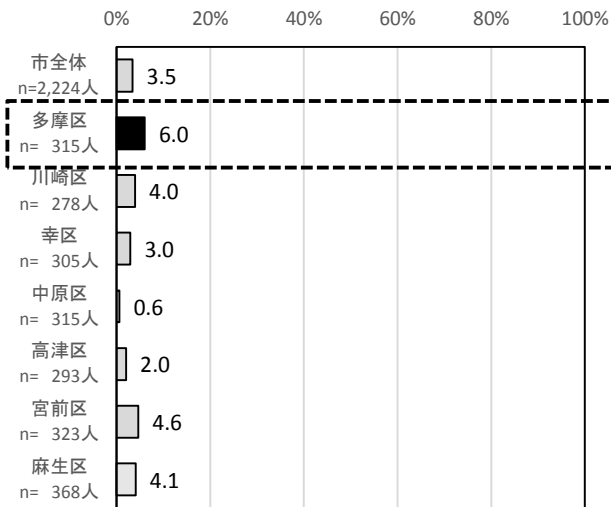
町内会・自治会に関する活動



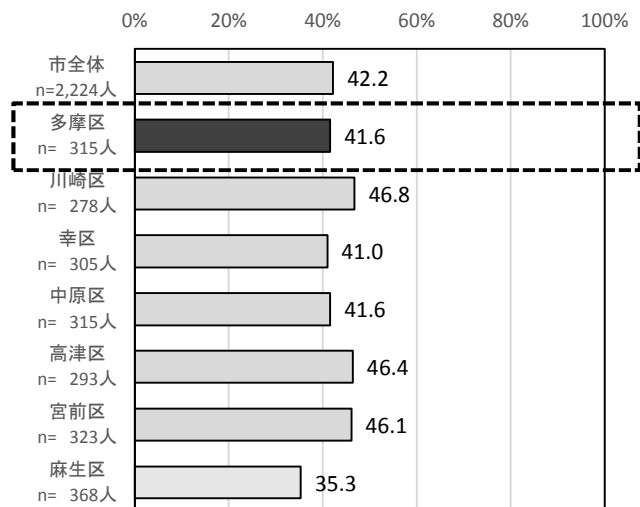
環境美化に関する活動



社会福祉協議会に関する活動



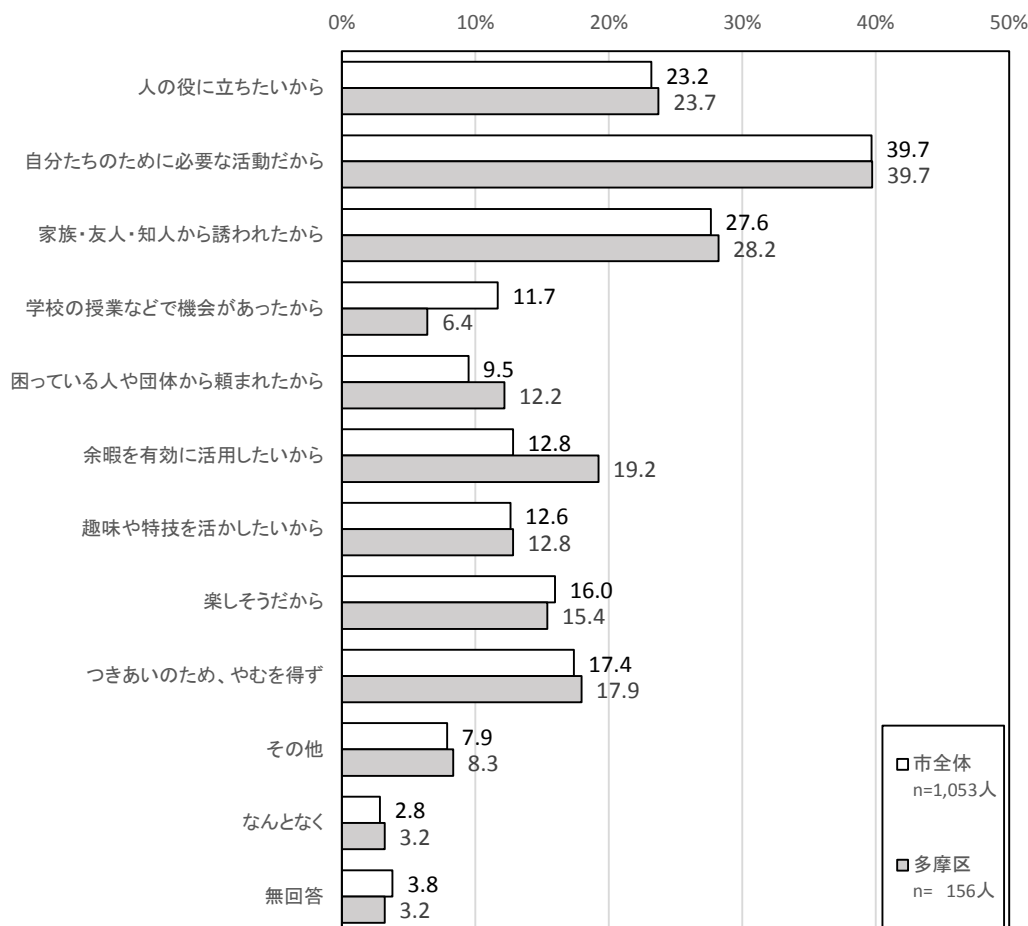
参加したことがない



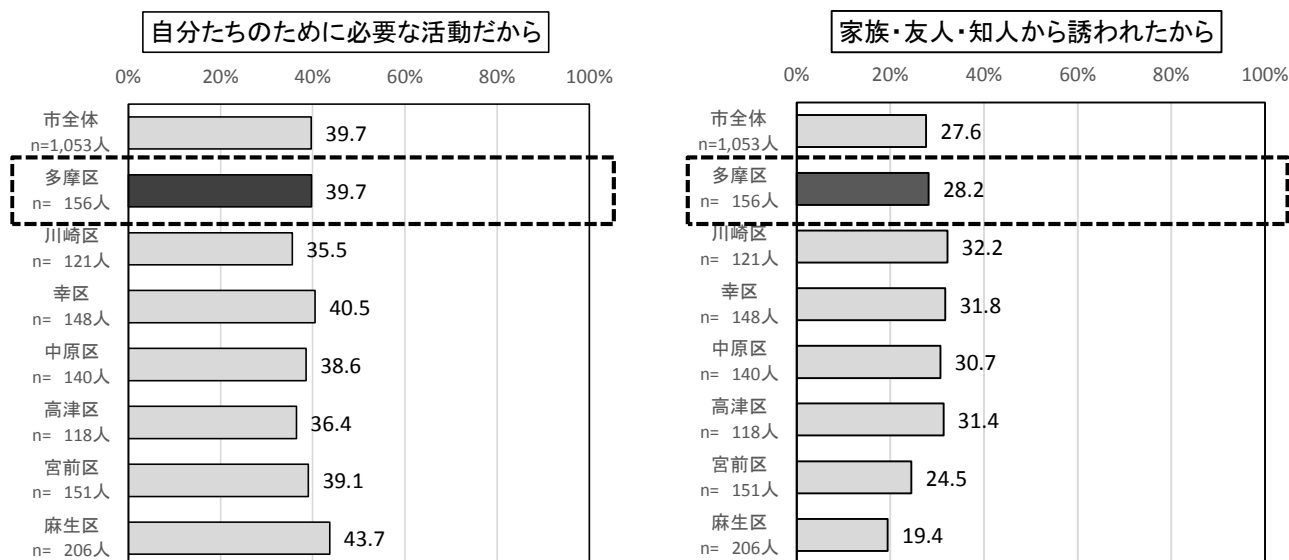
問31-1 《問31で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が39.7%で最も高く、次いで「家族・友人・知人から誘われたから」（28.2%）、「人の役に立ちたいから」（23.7%）となっている。

市内6区と比較すると、「自分たちのために必要な活動だから」の割合は3番目に高く、「家族・友人・知人から誘われたから」の割合は3番目に低くなっている。



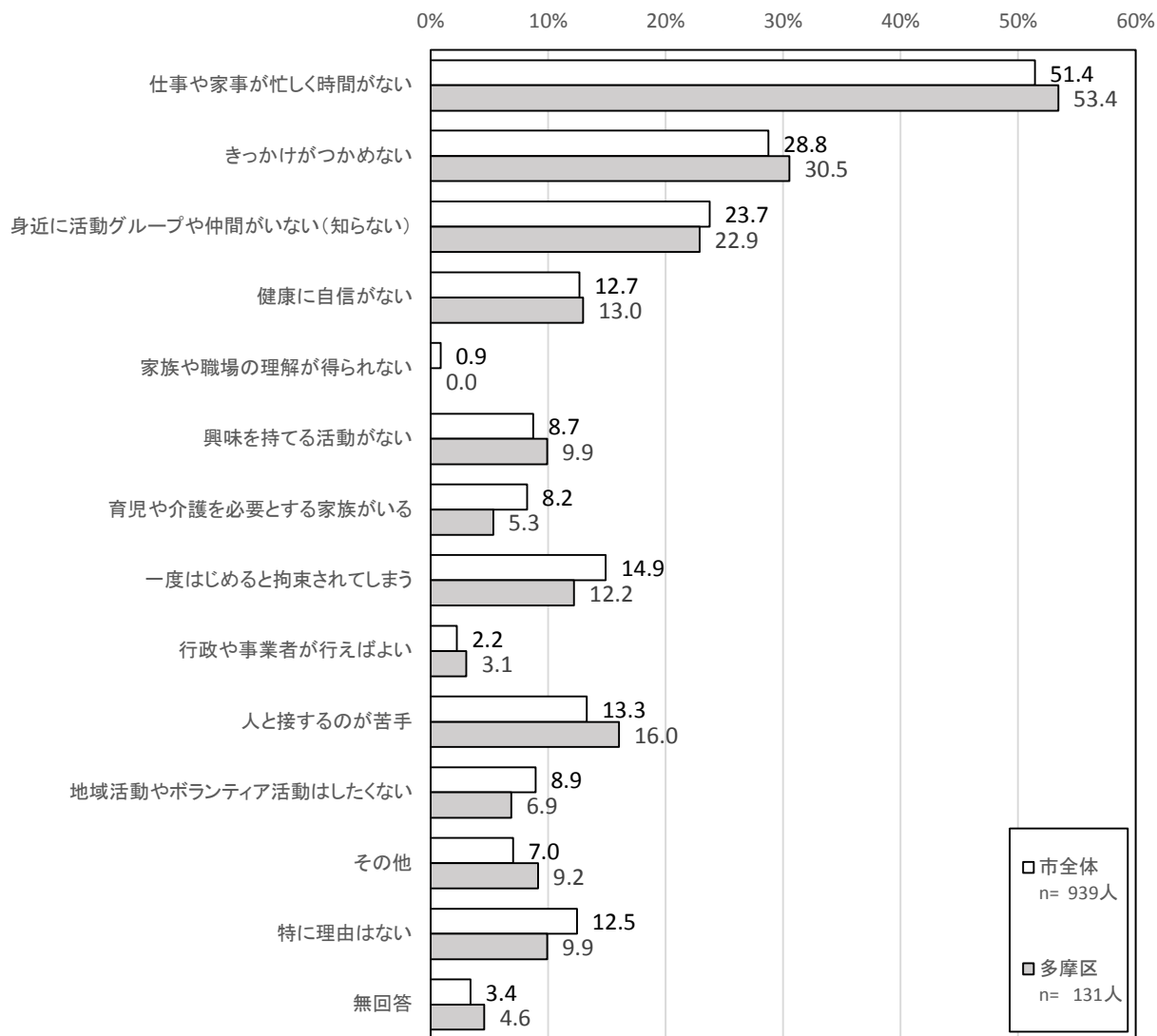
【参考】



問31-6 《問31で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

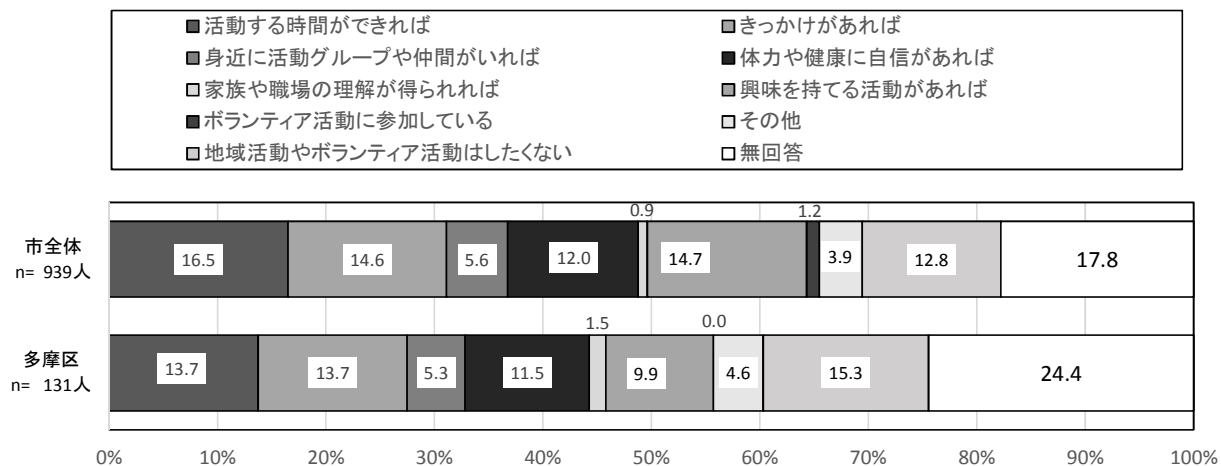
多摩区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が53.4%で最も高く、次いで「きっかけがつかめない」（30.5%）、「身近に活動グループや仲間がいない（知らない）」（22.9%）となっている。



問31-7 《問31で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

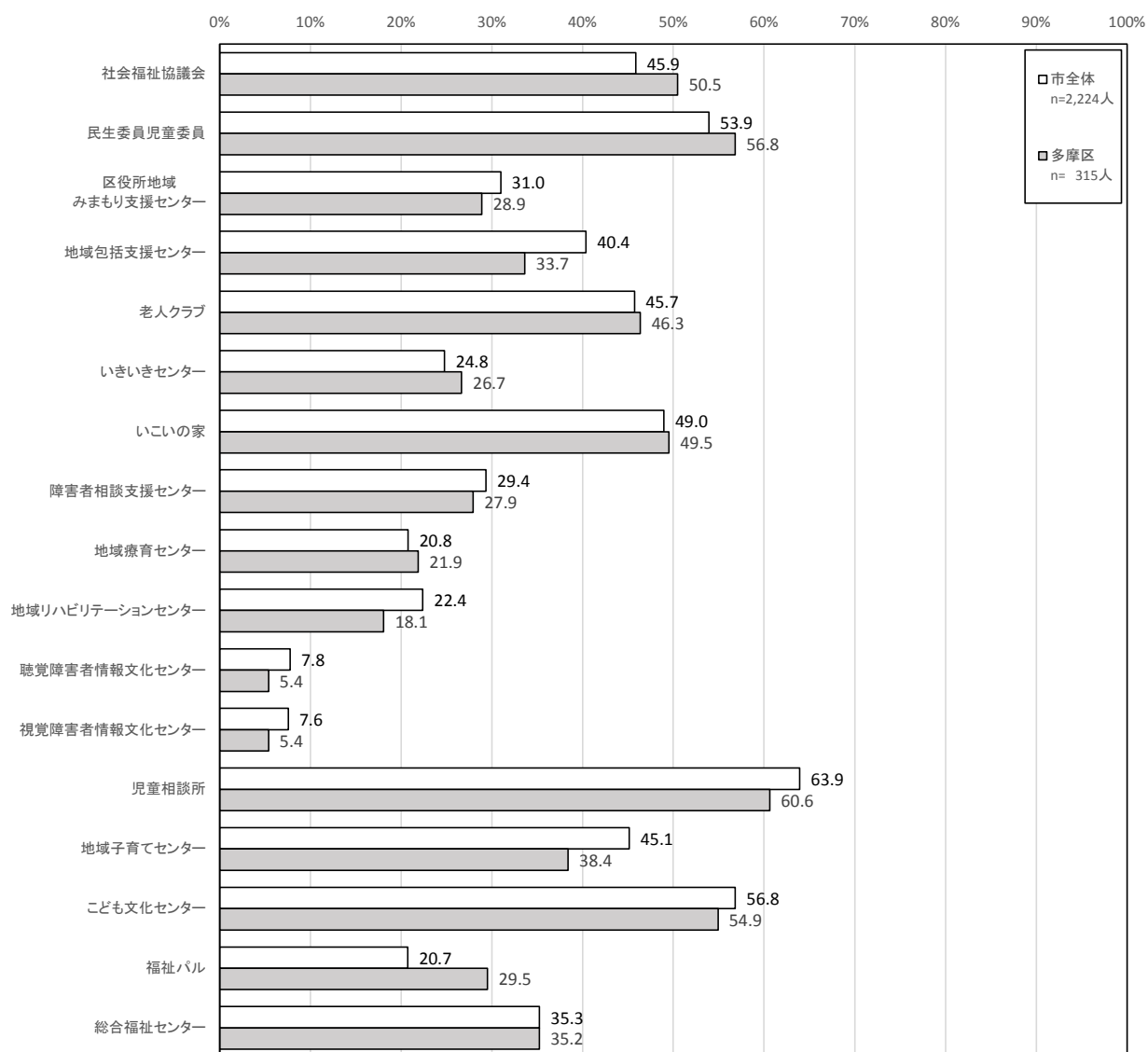
多摩区では、「活動する時間ができれば」、「きっかけがあれば」の割合が13.7%で最も高く、次いで「体力や健康に自信があれば」(11.5%)、「興味を持てる活動があれば」(9.9%)となっている。



5. 保健・福祉に関することについて

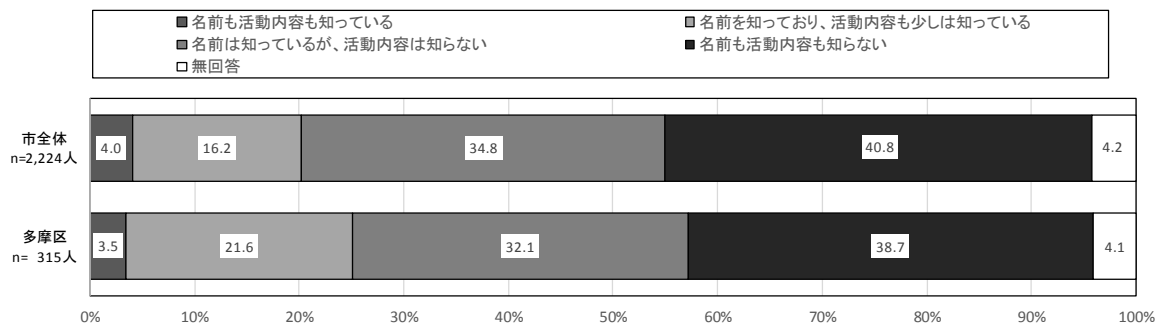
問 32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存じですか。（団体・施設等について「知っている」「知らない」のいずれか1つに○）

多摩区では、「児童相談所」の割合が60.6%で最も高く、次いで「民生委員児童委員」（56.8%）、「こども文化センター」（54.9%）となっている。



問 33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存じですか。(1つに○)

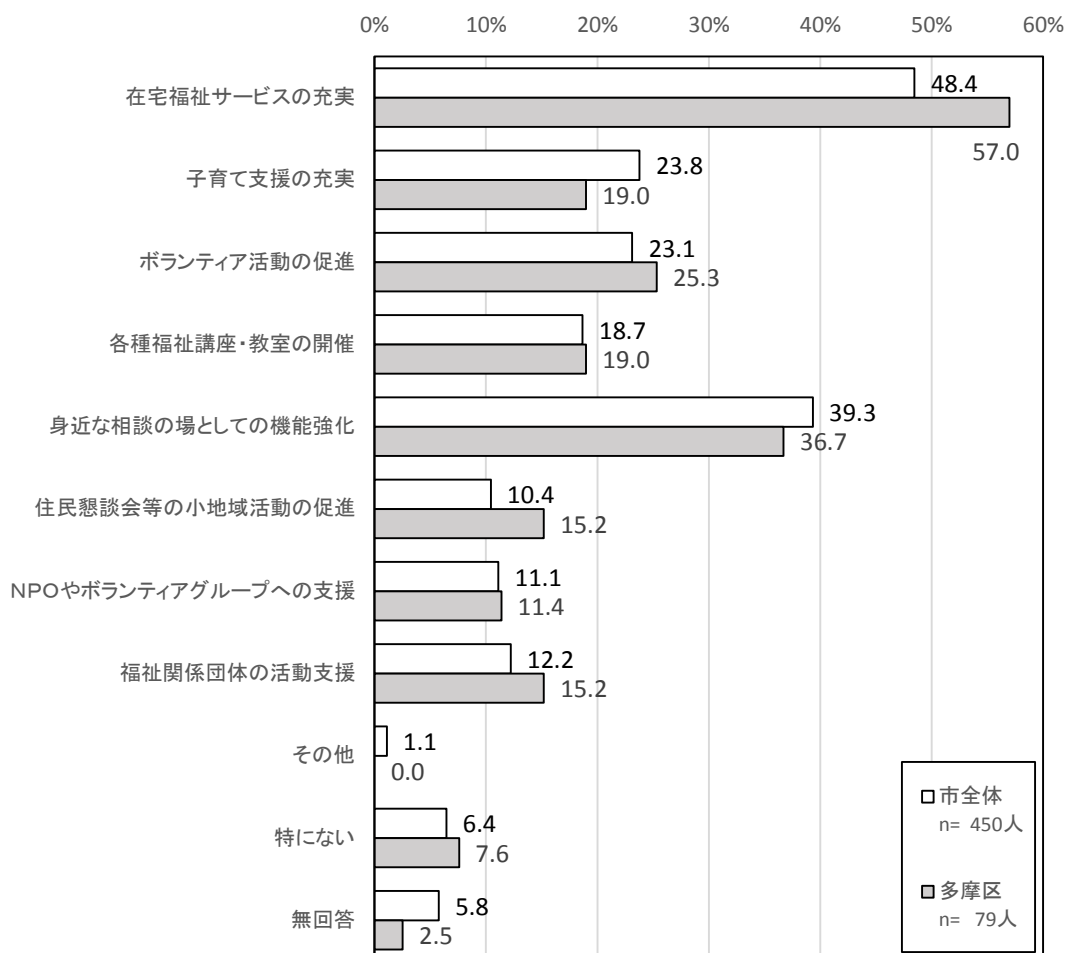
多摩区では、「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が25.1%で、市全体(20.2%)を上回っている。



問 33 - 1 《問 33 で「名前も活動内容も知っている」「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

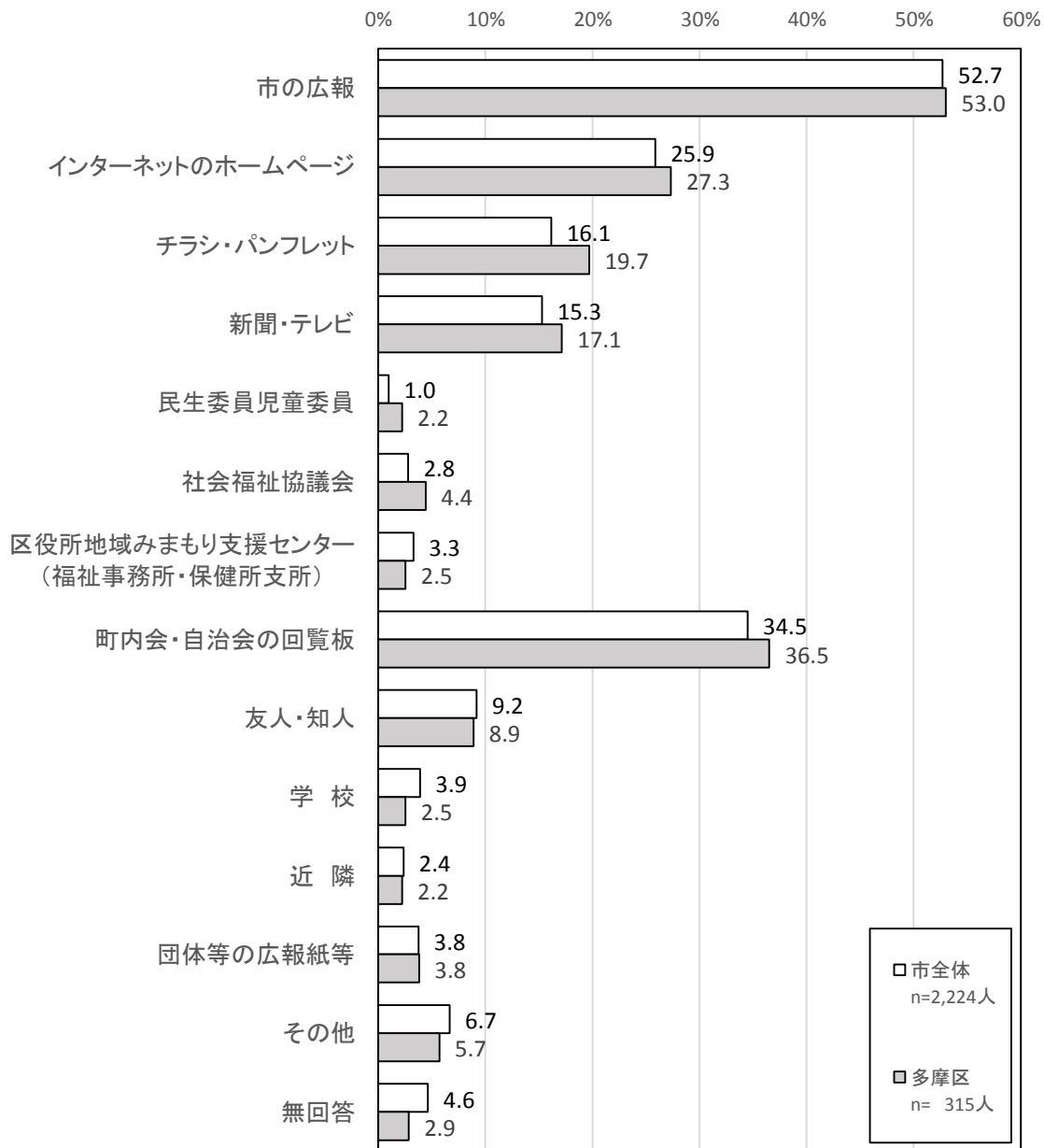
あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

多摩区では、「在宅福祉サービスの充実」の割合が57.0%で最も高く、次いで「身近な相談の場としての機能強化」(36.7%)、「ボランティア活動の充実」(25.3%)となっている。



問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

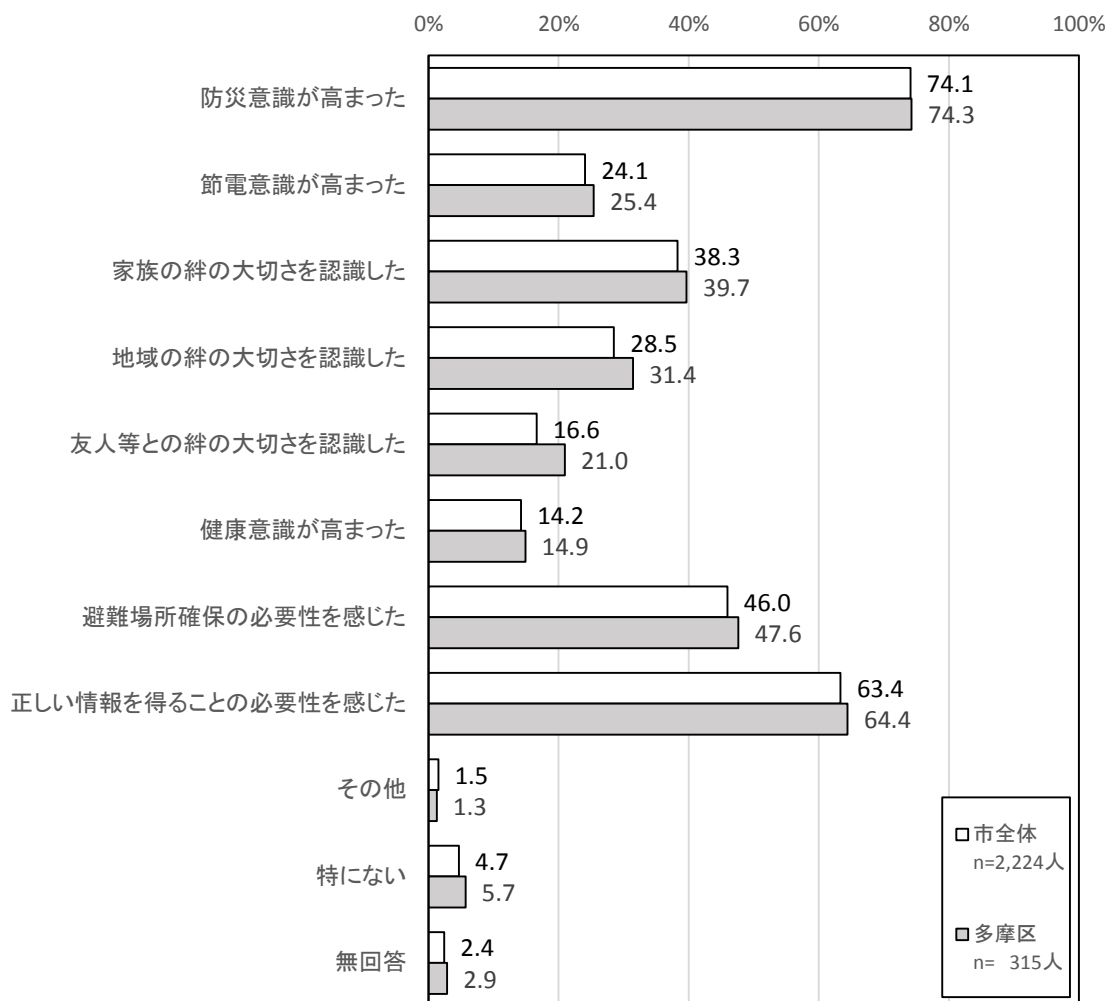
多摩区では、「市の広報」の割合が 53.0%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(36.5%)、「インターネットのホームページ」(27.3%)となっている。



6. 東日本大震災後の意識の変化について

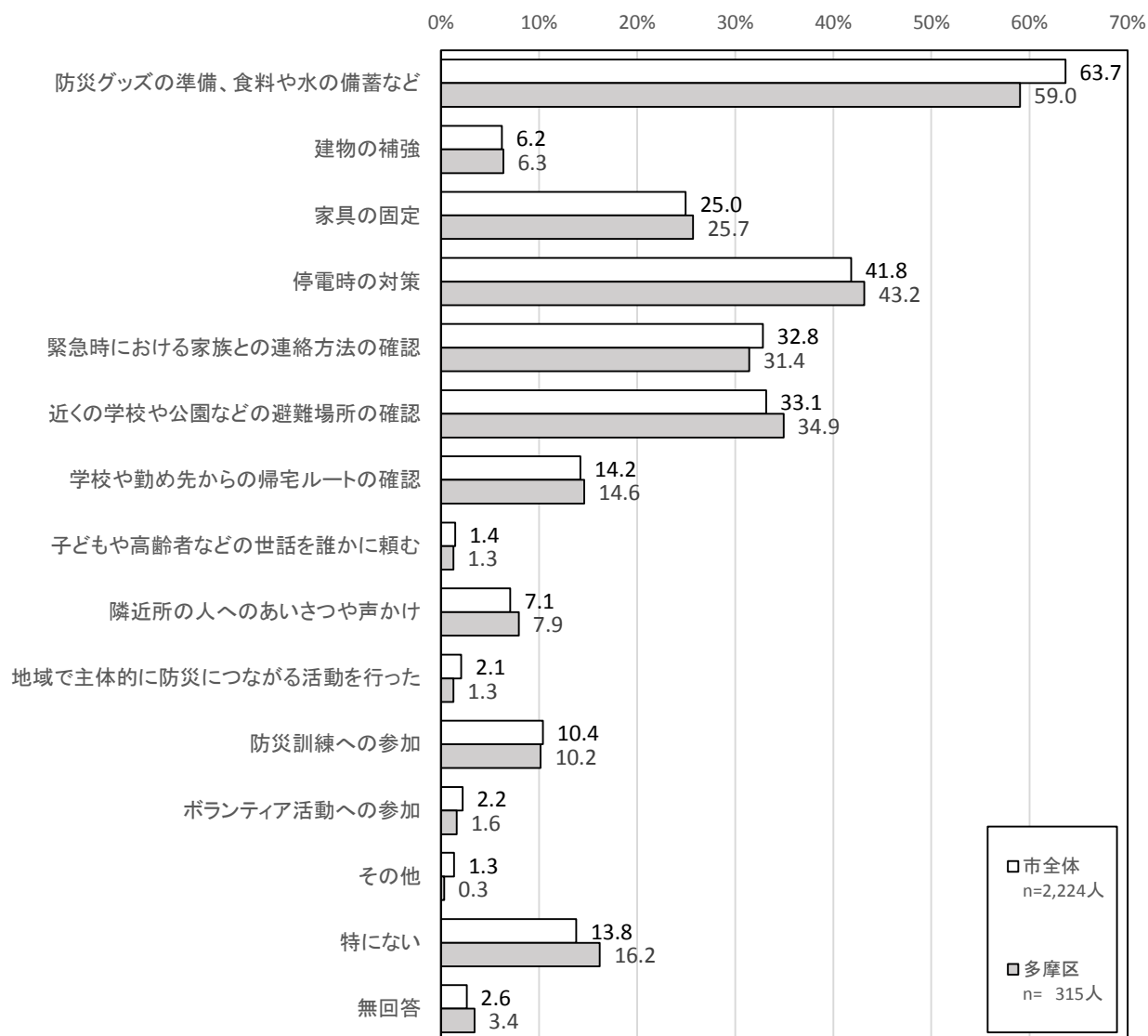
問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

多摩区では、「防災意識が高まった」の割合が74.3%で最も高く、次いで「正しい情報を得ることの必要性を感じた」(64.4%)、「避難場所確保の必要性を感じた」(47.6%)となっている。



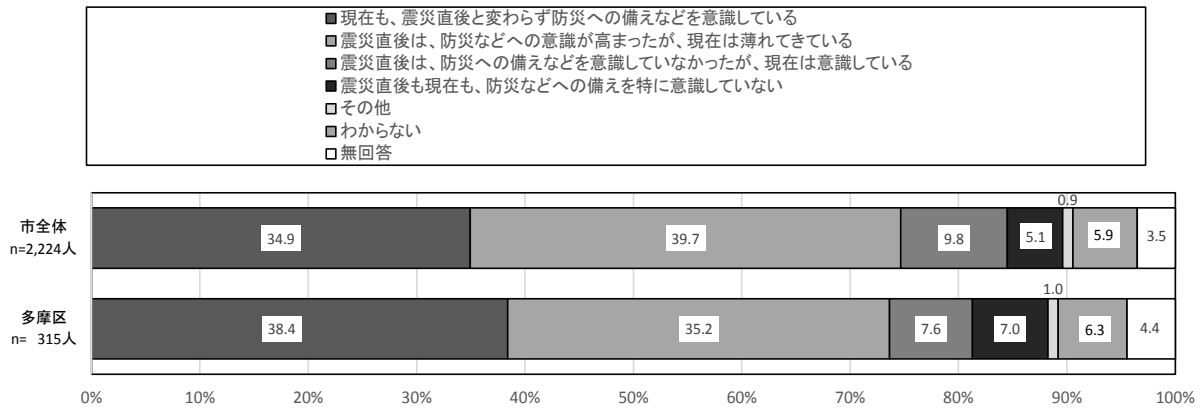
問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

多摩区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が59.0%で最も高く、次いで「停電時の対策」(43.2%)、「近くの学校や公園などの避難場所の確認」(34.9%)となっている。



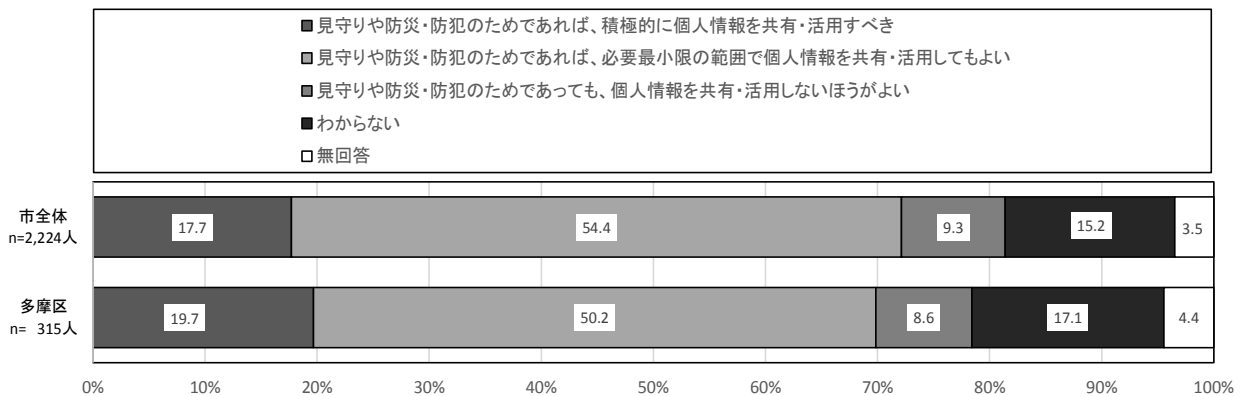
問 38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。
(1つに〇)

多摩区では、「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」の割合が38.4%で最も高く、次いで「震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている」(35.2%)、「震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している」(7.6%)となっている。



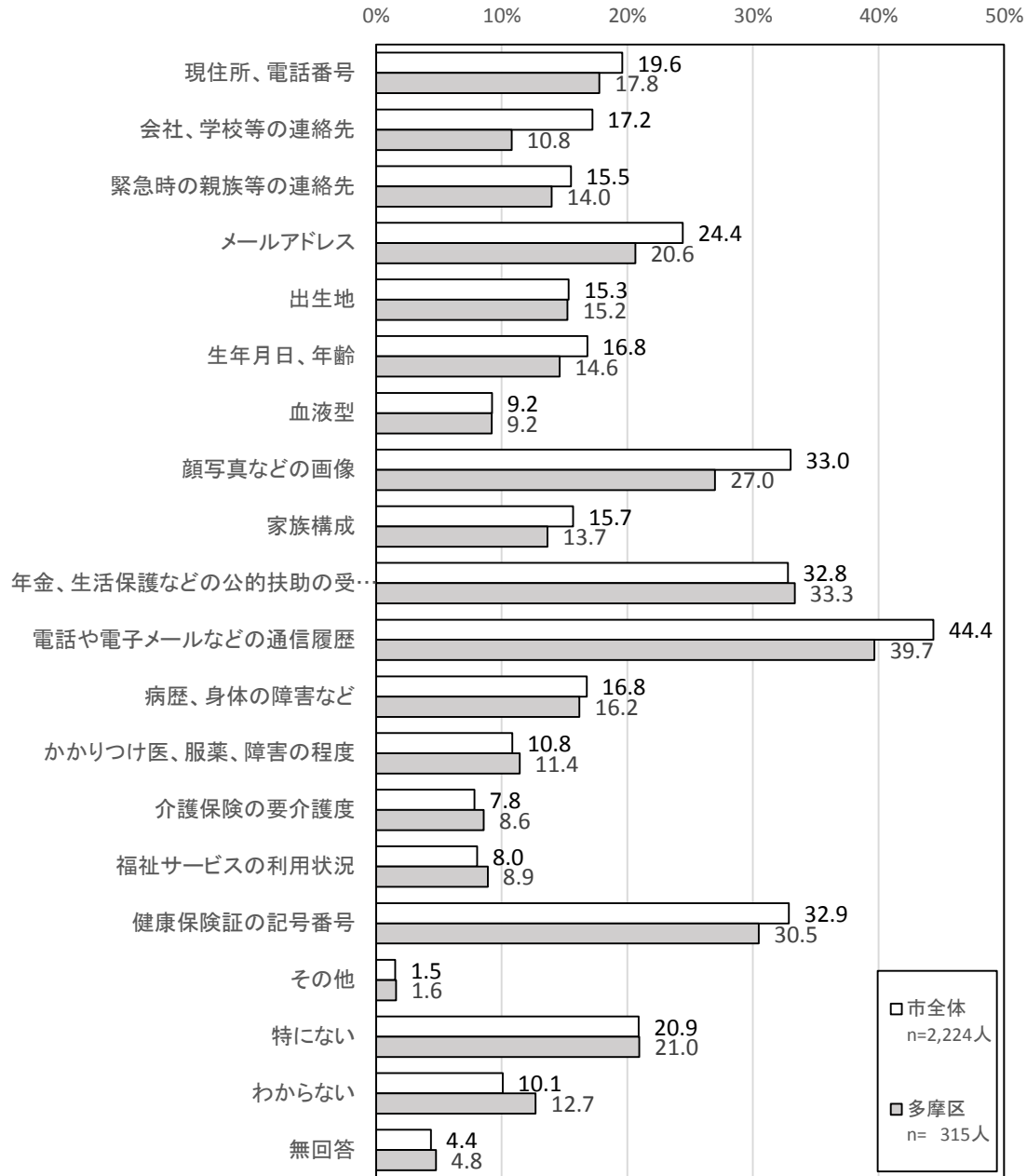
問 39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。
(1つに〇)

多摩区では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が69.9%となっている。



問 41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

多摩区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が39.7%で最も高く、次いで「年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無」(33.3%)、「健康保険証の記号番号」(30.5%)、となっている。

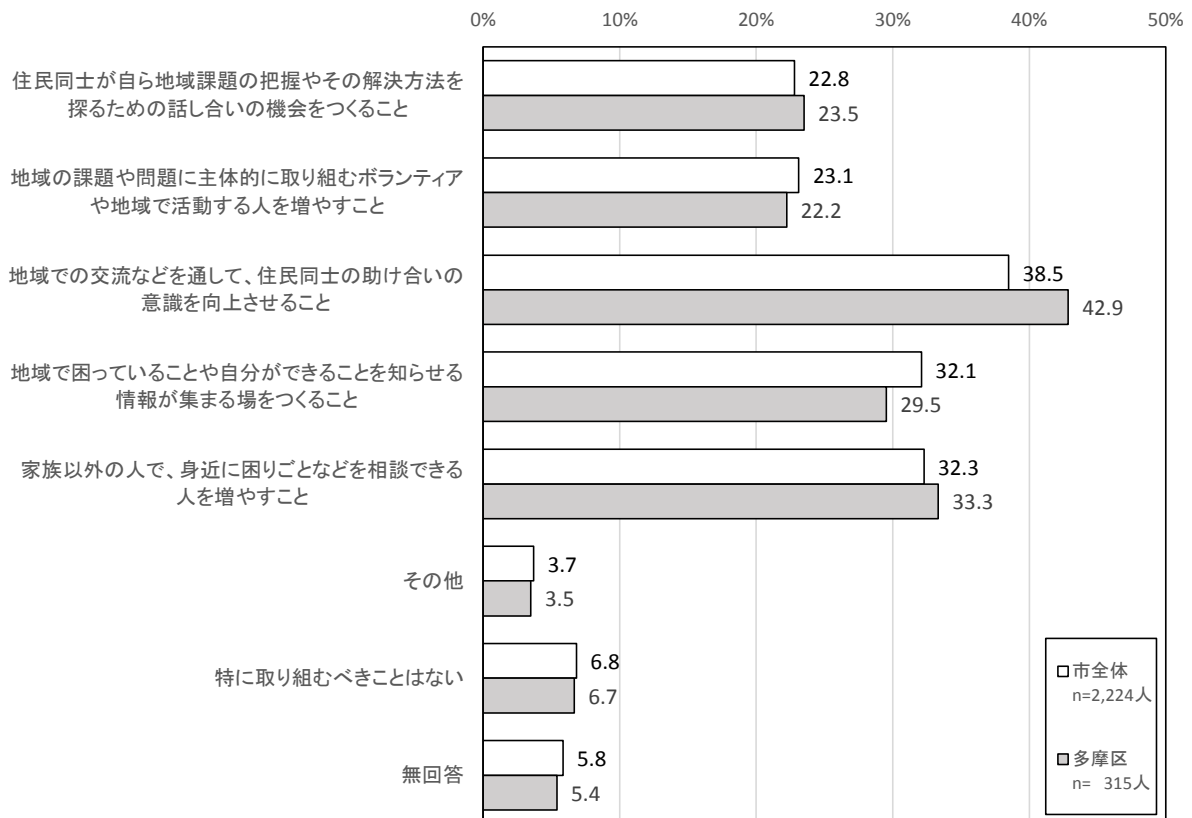


7. 今後の地域福祉の推進について

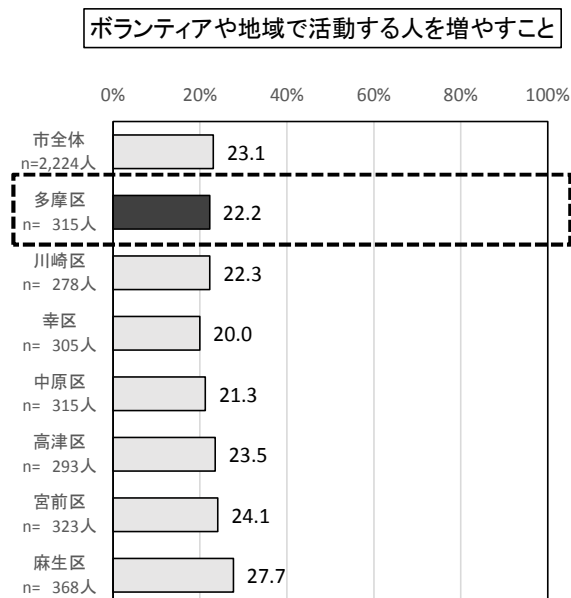
問 42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が42.9%で最も高く、次いで「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」（33.3%）、「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」（29.5%）となっている。

市内6区と比較すると、「地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと」については、22.2%で3番目に低い。



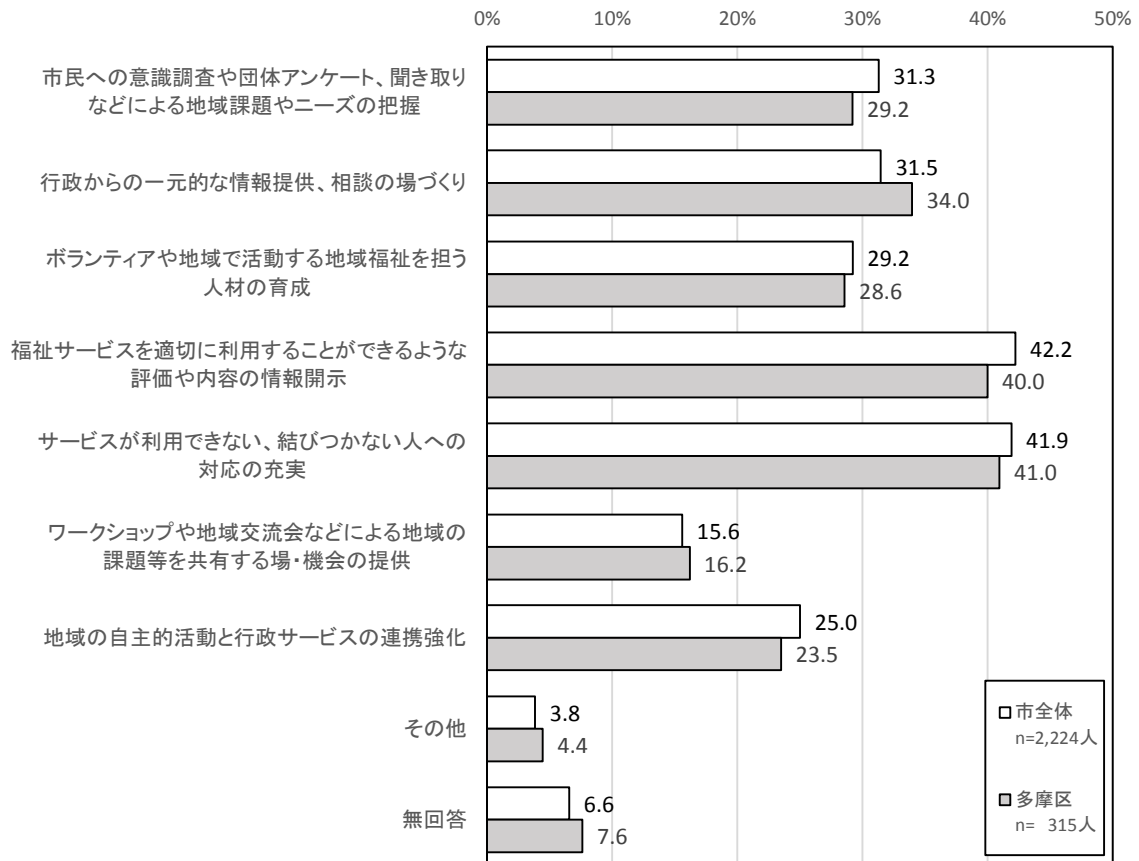
【参考】



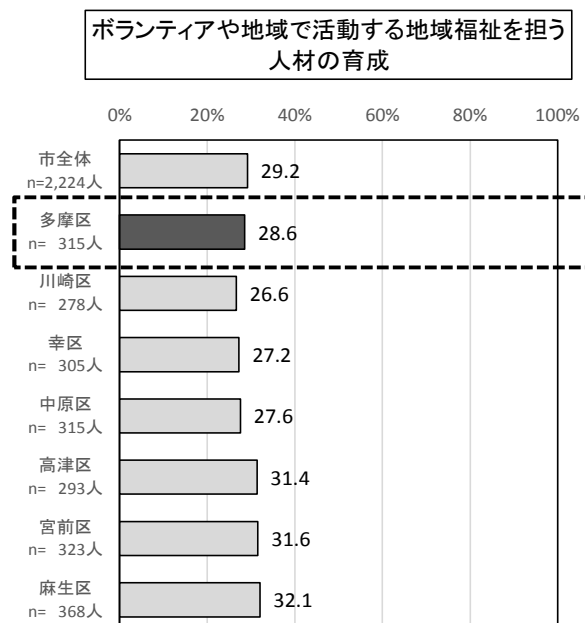
問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」の割合が（41.0%）で最も高く、次いで「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」（40.0%）、「行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり」（34.0%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」については28.6%で4番目に高い。



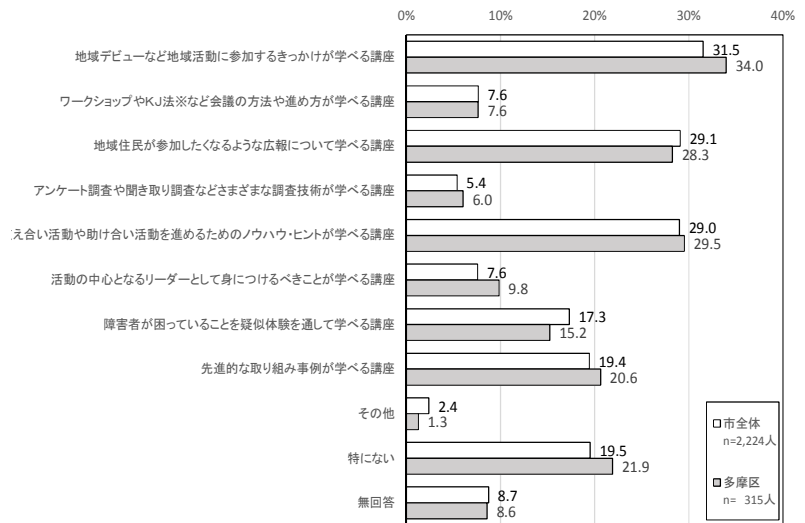
【参考】



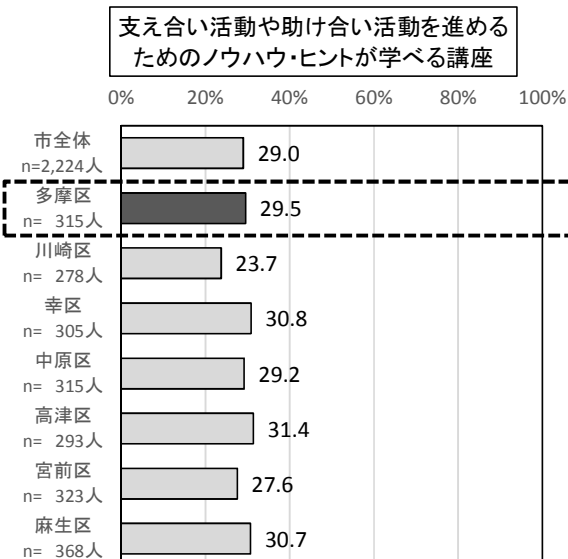
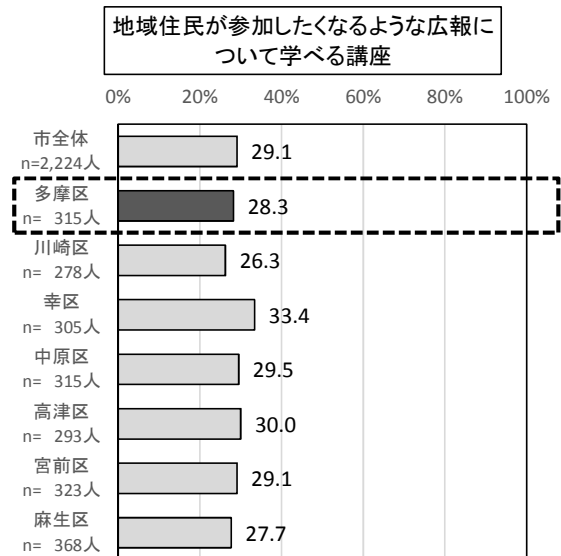
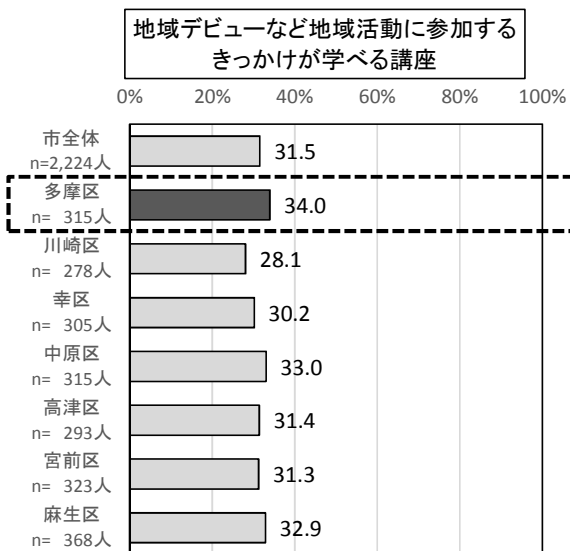
問 44 今後、地域福祉を推進するために、行政が行政が主催する講座としてどのような講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

多摩区では、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」が 34.0%で、市全体（31.5%）を上回っている。

市内6区と比較すると、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」は 34.0%で最も高い。また、「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」は 28.3%で3番目に低くなっている。

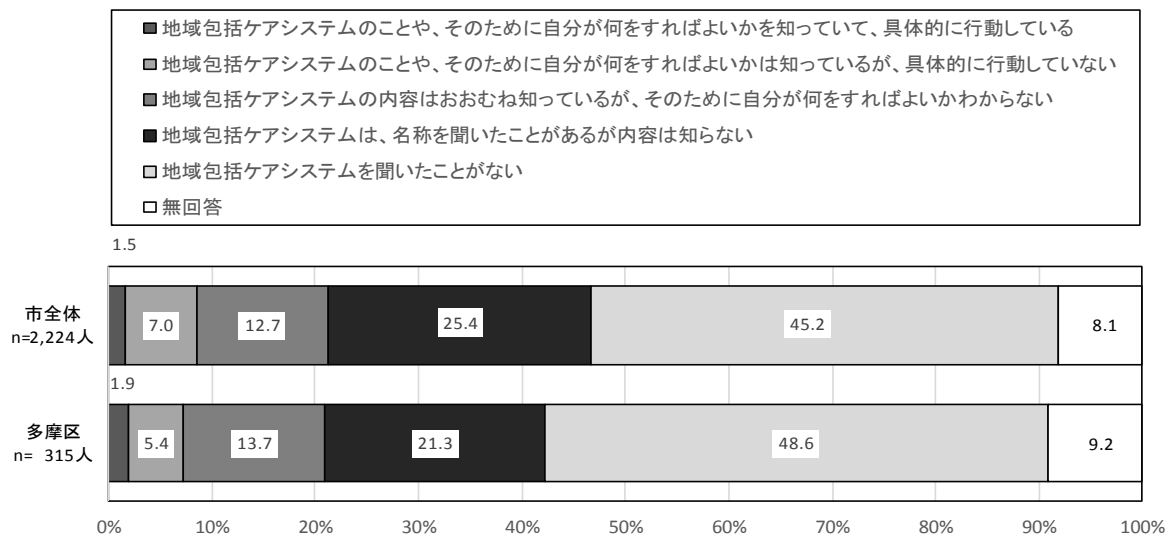


【参考】



問 45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。(1つに○)

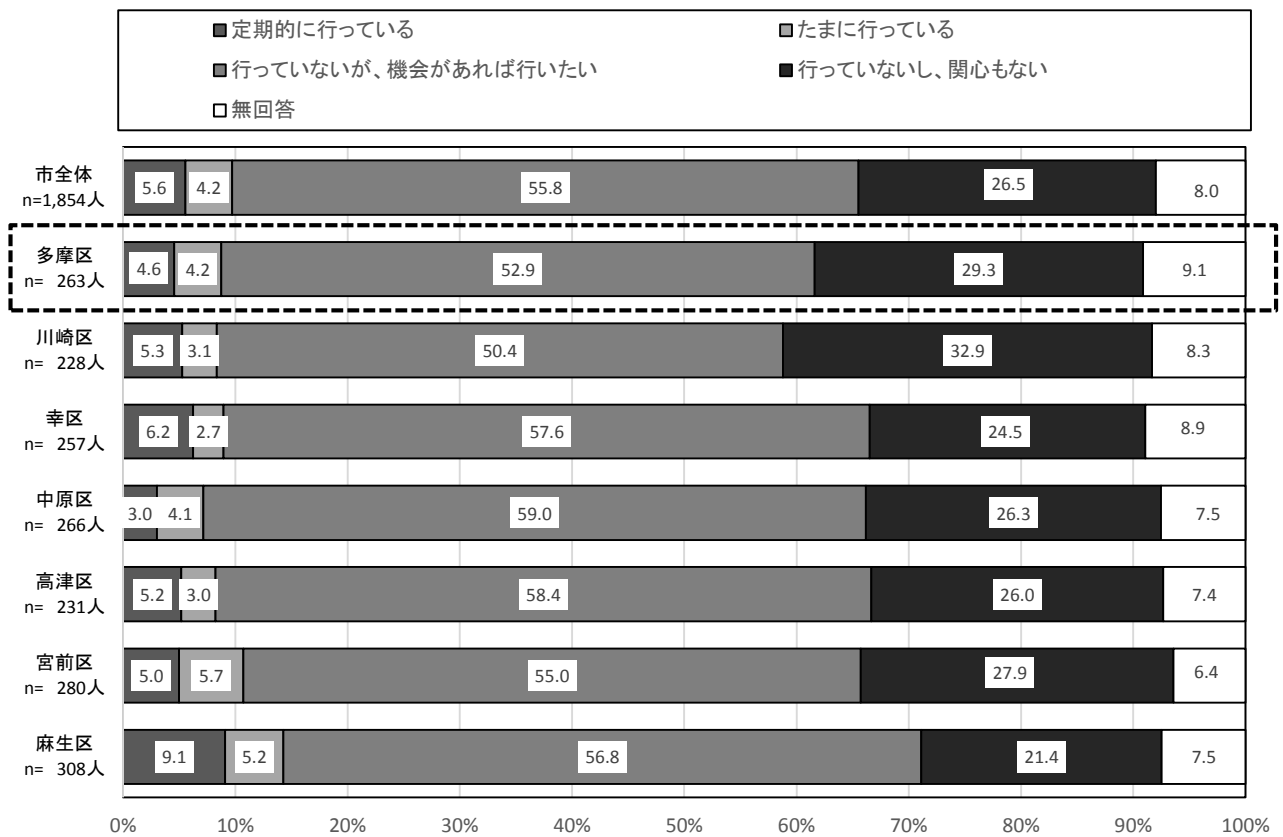
多摩区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が48.6%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(21.3%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」(13.7%)となっている。



問 45 - 1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあります。このような行動を行っていますか。(1つに○)

多摩区では、「定期的に行っている」「たまに行っている」の割合の合計が8.8%で市全体(9.8%)を下回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」「たまに行っている」の割合の合計は8.8%と4番目に高くなっている。また、「行っていないし、関心もない」の割合は29.3%で2番目に高くなっている。



8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

(1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	17
2. 地域防犯・防災に関する問題	29
3. 高齢者に関する問題	17
4. 地域のつながりに関する問題	20
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	10
6. 障害児・者に関する問題	2
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	5
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	3
9. 健康づくりに関する問題	1
10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題	0
11. その他	4

1. 子どもに関する問題（17件）

区役所管内

	内容
1	以前調布市に住んでおり、週3の扶養内勤務でも認可保育園への申込ができましたが、川崎市では認可外でも条件を満たさないとのことで申込みすらできないので非常に残念ですし、一時保育も電話申し込みの先着順のため、必ず勤務日に預けられるか不安で仕方ありません！！来年3月から仕事復帰ですが仕事を続けるか悩んでいる状態です。きちんと調べず引越してきてしまい後悔しています。
2	小さな子どもが家にいるので今後大きくなった時、1人で公園へ行ったり、登校する際に今の世の中の的に色々な人がいるので心配してしまいそうなので、より安心できればと思う。
3	小学生対象のサッカーチームの活動場所（グラウンド）が少ない。区や市から借りられるグラウンドがとても少ない。
4	共働きの為、小学入学時「わくわく」を利用したが、途中で飽きた。「行きたくない」と言うことが多くなり、小学2年からあまり行かなくなった。他の子ども同じことを言う。充実した放課後、長期休暇を過ごさせたい。
5	子どもを屋内で遊ばせたいときに場所が困る。
6	自分も含め将来的に高齢者の一人世帯が多くなり、同時に若年代は夫婦共働きが増え、日常子どものみが在宅している世帯も増加すると考えられるので。
7	子どもが遊べる公園が少ない。あってもボール遊びをしてはいけないなどのルールが多い。自由に遊べる公園がもっとたくさん必要（他2件）。
8	子どもが遊べる場所がマンション等の建築によって年々減っている。防災訓練をしているところは見たことがない（日中仕事でいないため）。たまに不審者が出るが周囲に子どもを守ってくれそうな大人がいない。
9	保育園に入るのがなかなか難しい。地域の幼児の数に対して保育園が足りていないと思われる。
10	子どもたちが安全で気軽に遊んだり集まったりする場所が少ない。

	内容
11	子育て支援が川崎市は遅れていると思います。他の市のように、中学生などにも医療費補助が必要です。うちは3人子どもがいるので、学費なども心配です。

生田出張所管内

	内容
1	公園での禁止事項が多い等。
2	子どもが安心して遊べる場所がない（他1件）。のびのび遊べる場所があれば子ども達がストレスをためなくて済むのでいじめも減るのではないかと思います。
3	仕事柄不動産関連事業に携わることがありますが、お客様の中には中途入園の難しさがあるため、居住や家の選択を決めるにあたり、機会を損失される方が非常に多くいらっしゃることを問題に感じます。

2. 地域防犯・防災に関する問題（29件）

区役所管内

	内容
1	小学校の登下校時間の不審者情報が多い（他1件）。
2	通学路の見守りが少ないこと。不審者や痴漢が多発する場所のパトロールをして欲しい（不審者に娘が出くわしたが何事もなかったのが幸い）。
3	特例だが登戸殺傷事件をはじめとし、咄嗟的な犯罪に身の守りようがない。パトカーによるパトロールも視野に入れてほしい。
4	周りにはどんな人が住んでいるのか分からない不安。
5	身近で事件が起きたりしているから。
6	子どもの安全面において不安がある→道路の歩道が確保できていない（車がスピードを出して走っている）。
7	家の前に道路があり子どもの飛び出し等、危険を感じている。
8	自転車のスピードが早い。暴走族のオートバイの音が迷惑。
9	交通安全、歩道、自転車、自動車道路の見直し。歩道が斜めでベビーカーが車道へ向かって進んでしまう。歩道がせまく小学生が通学時車道に出て歩いている。（中高生も）生田小学校への道、ガードレールすらない場所が多く、夕方（冬期）は暗い為、街灯がほしい。
10	暗い場所が多いのと車の交通量が多い。
11	登戸で痛ましい殺傷事件等々、不安が大です。
12	災害の時の避難所がハザードマップで浸水する範囲にある。
13	先日の台風で避難場所である最寄りの小学校の校舎が浸水と聞いて不安を感じた。
14	災害時に川や用水路の水対策が大丈夫か。
15	洪水や地震など天災があった時の避難場所が十分なのか。防災全般に不安がある。
16	水害や震災等について具体的な動きや地域の体制等がどうなっているのか、良く知らないで。
17	災害時の障害者の避難など、どうしてよいかわからなかった（この間の台風の時など）（避難先での透析の道具や処置も必要な為）。
18	先日の台風時、避難はマンション2Fのためしなかったが後で聞いた話であらかじめ指定していた小学校がいっぱい区役所に行くことになったと聞きました。これからもっと大きい長雨や台風が来た時、どうしたら情報が得られるのか、知りたい。
19	台風の時、避難所に行ったが高齢者にはむしろ自宅に居た方が精神的に安心。避難所にての様子が見えない。
20	地域で防災訓練などをやった覚えがない（他1件）。
21	洪水、崖崩れの心配。

生田出張所管内

	内容
1	空巢の問題、防犯は必要。
2	最近では強盗、不審者などのことを聞くことがこの地域でも多くなっている（他1件）。子どもがいるので子の安全が心配。地域の目が必要だと思う。
3	避難所指定はあっても普段利用している所ではない（子どもが通っていなかった学校）ので利用したいが行きづらい等。
4	道路に歩道がないので車と歩く高齢者との危険を感じる。
5	ご高齢の方が多く、災害が起きた時、助けたいと思うが、地域のつながりが強い訳ではないため、いざという時、自分や自分の家族だけを助けることで精一杯になりそう。

3. 高齢者に関する問題（17件）

区役所管内

	内容
1	高齢化しすぎて登録、権限、責任が引きつがれていないこと。
2	妻の介護についてやってもらっています。
3	介護施設が不足している。
4	集会所があっても面倒を見てくれる人がいない。昼間。
5	高齢者が多い地域なので将来の様子が漠然と不安。
6	孤独死が問題であり、救急車が多く出入りしている。
7	自分が年を取って社会参加をして、認知症やフレイル予防に積極的に社会活動をしたいと思っている。
8	高齢者の一人暮らしが増えている。

生田出張所管内

	内容
1	自治会に高齢者が増え、従前のやり方では対応しきれなくなっている。
2	要支援のサービスをもう少し充実できたら要介護になる人が減るのではと思います。
3	お年寄りが一人で生活、歩けなくなりつつあり犬の散歩をできなくなったらお願いと言われたが一時は良いが長期間はこちらも年寄なので困る。子どものいる人が通った時積極的に話をするようにしている。何かあったら手助けが出来ればと思うし、してあげている。
4	一人住まいの方の見守り（他2件）。
5	交通手段が少なく、坂もきついので買い物に行けない。
6	居住者の高齢化にかかわる諸問題（他1件）。

4. 地域のつながりに関する問題（20件）

区役所管内

	内容
1	地域についての関心度の強弱がある。
2	子どもがいないこと。働いて時間もないこともあり地域の人と接する機会が少なくつながりを持ってない。
3	マンション内でも人付き合い、交流の場や機会がない。町内会にも加入していないので近所付き合いもない。
4	戸建てが多く引っ越してきた方と話す機会が無い。
5	マンション内でも高齢者（70才以上）が多く、老人会に誘ってもその意志がない。
6	町内会の役員の方々の高齢化と若い子育て世代の方がいそがしすぎるためか、地域との交流に二の足をふんでしまい、世代間の交流、継承がうまくいっていないと感じています。

	内容
7	地域活動は町内会、自治会等の活動から高齢者、子ども達が共に生きていけるから必要である。市（区）の支援と情報の必要性を感じる。
8	顔も知らない、話をしたことがない近所の方があまりに多く、災害などの際、誰に声をかけたら良いかわからない（他2件）。
9	祭らしい祭が無い。リーダーが中途半端、余り心が通っていない。金があっても（町会に）使えない。行事不足。
10	町会の役員決めがなかなか進まず困る。
11	子ども会の参加が少ない。地域活動している人の高齢化。
12	個人と集団(地域)との距離感がむずかしい。個人にあまりふみ入るのはどうかと思うし、距離を置いているのもどうかと思う。
13	主婦も働いている人が多い。郵便ポストの前で出逢っても「こんにちは」のみ。一部の人は災害、介護の問題に関心の有る人も住んでいられるが、それ以上話は進まない。

生田出張所管内

	内容
1	集合住宅が多く、住人の顔がわからない。
2	住んでいるマンションは単身のみ。学生がほとんど。
3	町内会はあり、加入しているが、活動の拠点となるべき町内館や自治会館がないためつどいや交流が進んでいない。
4	町内会に加入していない人がいる。
5	年代が違う。(60代と30代)子育てが終了(孫あり)したものと子育て真最中の世代格差があり話題が違う。

5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（10件）

区役所管内

	内容
1	高齢化による人手不足と情報伝達手段の整備不足（他1件）。
2	集合住宅においては地域の情報は殆ど知らない例が多いと思う。
3	子連れで出かけられる場所など沢山あるが知らない人が多い。
4	当然の事も知らない又は知られていないという事実がある。区民、県民に有益な情報をもっと積極的に広報すべき。
5	町内会などでの放送（防災放送）が流れても聞き取りにくい時がある。何が放送されているのか分からず、情報が得られない。
6	高齢者や障害児、者のサポート制度に関する情報は、人伝えに聞くことが多く、県・市等からの情報は入りづらい。
7	問12にあった市の計画が充分周知されていないのが具体例。広報、周知徹底の方法を見直した方が良い。得たい情報にすぐアクセスできる、すぐ得られるような方法を考えるべき。「HPを見て下さい」以外の必要な情報を確実に必要な人に届けられないのは「公」の広報ではない。続きはwebなどでという民間の様な御手軽広報は「公」の広報の手法として適切ではない。

生田出張所管内

	内容
1	何か困った時気付いた時に情報を共有する所がないため。
2	SNSなどが発展しているのに知らないことの方が多いいところ。

6. 障害児・者に関する問題（2件）

区役所管内

	内容
1	障害者に対する理解。
2	就職しての差別。

7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（5件）

区役所管内

	内容
1	多摩区公園体操にもっと多くの方々が参加できるしくみをつくること。PR 不足、声かけ運動。
2	一年以内に町会の会合及び（教室）カラオケ、フォークダンス、その他の集まりを知り参加しましたが、もっと多くの方が参加して楽しい日々を送る事を広めたらいいと思います。
3	人と人が気軽にふれあえるカフェのような場が必要。

生田出張所管内

	内容
1	自治会に入らない人がいる。団地に高齢者が集まる場所がない。
2	残念ながら常に気軽に集まれる集会所が（自治会館、いこいの場所）がない為に年寄は家の中にとじこもりがちになっている。常にいろいろな形で集まって楽しくお茶を飲むような場所がほしい！

8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題（3件）

区役所管内

	内容
1	お互いの健康状態を知らない場合がある。
2	子どもが小さいうちは家庭内にこもりがちになり外出できない。

生田出張所管内

	内容
1	健康不安。

9. 健康づくりに関する問題（1件）

区役所管内

	内容
1	生きる目標、手立て、健康不安。

10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題（0件）

11. その他（4件）

区役所管内

	内容
1	駐車場ではない所で平気で車を停めて子どものお迎えなどしている親。ゴミ出しの日を守らず台風等で散らかっても知らん顔する人。地主や大家だからと好き勝手する人がいる。
2	地元で過ごす時間がなくよく分からない。

生田出張所管内

	内容
1	ゴミの収集。
2	何か困った時気付いた時に情報を共有する所がないため。

(2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	1
2. 地域交流のため	6
3. 社会貢献	1
4. 健康維持	5
5. 時間に余裕があるから	1
6. 身近で関心・興味がある	1
7. 仕事をしていた或いは資格があるから	2
8. 街の美化のため	1
9. 時間に余裕がなく、できない	1
10. 病気・高齢だからできない	5
11. 参加する気はあるが方法がわからない	1
12. その他	6

1. 自分自身や子どものため（1件）

区役所管内

	内容
1	必要だと感じている為。

2. 地域交流のため（6件）

区役所管内

	内容
1	知り合いが出来れば良いと思うので。
2	地域のためになれるから。
3	人と人との輪を広げるため。

生田出張所管内

	内容
1	健康維持と地域住民とのコミュニケーション。
2	イベントを介した隣人との交流。
3	人的交流を広めたい。

3. 社会貢献（1件）

区役所管内

	内容
1	少しでも役に立てればよいから。

4. 健康維持（5件）

区役所管内

	内容
1	健康づくりを毎日行っているため。
2	体力が低下し、健康に不安を感じるから。
3	健康のため。

生田出張所管内

	内容
1	健康維持と地域住民とのコミュニケーション。
2	健康維持、増進。

5. 時間に余裕があるから（1件）

区役所管内

	内容
1	自由時間が増えたから、有効に使いたい。

6. 身近で関心・興味がある（1件）

区役所管内

	内容
1	自分の好きな分野だから。

7. 仕事をしてきた或いは資格があるから（2件）

区役所管内

	内容
1	医療従事者なのでそれをいかしたい。
2	医療に関する職業としたこと。

8. 街の美化のため（1件）

区役所管内

	内容
1	私はときに路面にゴミが落ちているのがいやなのでゴミ拾いをします。

9. 時間に余裕がなく、できない（1件）

生田出張所管内

	内容
1	仕事が平日休みのため、土日開催イベントに参加できるタイミングがそもそも少ない。

10. 病気・高齢だからできない（5件）

区役所管内

	内容
1	92才で歩行も出来づらいし何も出来ない。
2	79才になって人の役に立つなど出来るはずがない。周りの人に迷惑をかけるだけで終わりになってしまいます。それに私ははずかしながらアルツハイマーという病気をかかえています。
3	自分が高齢になり体力がなくなったので。

生田出張所管内

	内容
1	自分自体が高齢者なので。
2	障害者の為参加できない。

11. 参加する気はあるが方法がわからない（1件）**区役所管内**

	内容
1	近年移住したため、現在地の様子がわからない。

12. その他（6件）**区役所管内**

	内容
1	自分の体は自分で守る。
2	宿河原地域は20年以上住んでいるけど地元が強すぎる為、他からの住民は何となくよそ者のな感じを強く感じる。
3	健全なる精神は健全なる身体に宿る。
4	一隅を照らす。一環として。
5	例、台風19号による屋根瓦の補修に、紙素材の代品の製作を映像で見ました。

生田出張所管内

	内容
1	”フィットネスクラブ”に参加しているためスポーツ活動に関して充分。

(3) 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

『地域包括ケアシステムの取組等』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	5
2. 市への意見・要望について	15
3. 地域住民とのつながりについて	3
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	3
5. 今自分がやれることがない	0
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	6
8. 取組への期待について	5
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	1
11. 多世代や異属性間での交流について	0
12. 地域防犯・防災について	1
13. サービスや手続きについて	1
14. 医療について	0
15. その他	9

1. 取組の周知について（5件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	勤務先が都内のせいか都内の情報はよく耳にするが住んでいるところは全くと言っていい程耳にする機会もなく調べてもよくわからない。
2	70～74 歳	マンションの暮らしは地域との関わり合いがあまりないので孤立しています。マンション管理組合が地域自治会に加入して情報を密に取るなどの方法でマンション住民にフィードするようなルートが必要かと思います。
3	70～74 歳	川崎市に転入して3年余りになりますが、地域包括ケアシステムの名前を知りません。何故でしょうか。もしそういう市民が大勢いるなら是非考えてみてください。なお、市の広報紙を見たことがありませんが、それは自治会に入ってないからでしょうか。もしそうならそれも考えて下さい。

生田出張所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	全く知らない。どこで情報を公開しているのかも知らない。
2	70～74 歳	地域包括ケアシステムの広報を積極的に行ってほしい。

2. 市への意見・要望について（15件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	自らの健康管理をしっかり行えるような余裕のある社会ではないため、近隣住民を支えることまで意識することは難しい。自分以外のことに関心を持つことが出来るような人間は、時間又は経済的にある程度余裕があると考えられるが、本当に助けを必要としている人間は時間・経済ともに余裕がなく他者との交流をしている場合ではないと考えているのではないのでしょうか。
2	25～29 歳	資源ごみはボランティアが行っているが、回収日数も少なく、回収場所も自宅から遠いため、資源ごみとして出すことができない。（特に雑誌、段ボール）普通ゴミやプラスチックごみと同様に市で回収してもらいたい。
3	35～39 歳	機会があれば行きたいが時間が無い。仕事と子育てで手いっぱいケアシステムの事も知らなかった。前ページの説明を読んだが、目標としていることが漠然としていて、何をしたいのか、何をすればよいのかが、分からない（他1件）。
4	45～49 歳	現場の状況がわからないのですが、人員が足りているか、困っている事例があり、担当の方の疲弊はないか心配です。また、高齢者には自分の生活や家に入ってほしくないと考えている方（他人が家にくる不安）がいて、人対人なので合う・合わないとかもあるし、活用したい、活用した方がいい人もスムーズに活用できていないと感じます。
5	45～49 歳	関心なし。
6	50～54 歳	勤務先が都内のせいか都内の情報はよく耳にするが住んでいるところは全くと言っていい程耳にする機会もなく調べてもよくわからない。
7	55～59 歳	住民の特性を活用するため各年代や各職業から人選して参加を呼びかけるなど。川崎市内の企業と交流して、人材（出向などで）を得る←法人税軽減などの手で。
8	60～64 歳	ケアマネを通して父を高齢者施設に入居させていただき助かっています。年老いた母 87 才と同居していますが、毎月ケアマネが訪問して下さり、デイサービスにも週 2 日通わせていただいています。これが 2 年に 1 度の役所の審査により介護度が下げられない事を願っています。地域包括システムとは直接関係なかったかもしれませんが、家族の願いとして書かせていただきました。
10	70～74 歳	知らなかったので地域包括ケアシステムの勉強会はどこで学ぶのか知りたいです。
11	75 歳以上	自分が強くなる教育を高齢者にすべきである。人間の本体である金と性に取り組みば高齢者は元気になるのではないか。
12	75 歳以上	市の少子化と高齢化が両極をなし、行政は非常に難しい舵取りになっている。市民生活は地域活動に有るが、行政支援で市民が守られていると思う。一人暮らしの高齢者（生活保護）、子育て家族（子育て支援）等。市民の交流を通して互いの個人情報交換が出来れば、より助け合う機会が増えるのではないかと思う。

生田出張所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	町内会に入っていないと、サービス受けられないとかにならないように望む。皆、税金おさめてきたのだから。Ex) ゴミ収集場つかわせないみたいに！
2	65～69 歳	在宅ケアサービスの充実を願う。地域医療。介護相談窓口の一元化。上記ネット上での情報開示。

3. 地域住民とのつながりについて（3件）

区役所管内

	年代	内容
1	70～74 歳	マンションの暮らしは地域との関わり合いがあまりないので孤立しています。マンション管理組合が地域自治会に加入して情報を密に取るなどの方法でマンション住民にフィードするようなルートが必要かと思います。

生田出張所管

	年代	内容
1	20～24 歳	最近は何覧板なども減ってきているので隣人との関わりが減っている。若者たちは SNS が日常の一部になっているので、情報が SNS で知れると良いなと思った。地域で運動会やおもちつき大会など子どもから大人、高齢者みんながたのしめる行事があると関わりも深まるのではないかと思う。
2	65～69 歳	高齢化が進めばさらに人間関係が希薄になるのでこのような活動は重要です。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（3件）

区役所管内

	年代	内容
1	30～34 歳	近隣住民との交流や各種イベントがいつどこで行なわれるか、わかりやすく案内してほしいです。また、平日仕事をしているので、土日や祝日でないと参加はできません。
2	60～64 歳	平日の活動については仕事で参加できないし、やっても早い時間のみ（例えば午後 5:00 など）で、ウィークデー含め夜の説明会など仕事の後で参加できる説明会など若い世代の参加可能な時間帯が必要。

生田出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	最近は何覧板なども減ってきているので隣人との関わりが減っている。若者たちは SNS が日常の一部になっているので、情報が SNS で知れると良いなと思った。地域で運動会やおもちつき大会など子どもから大人、高齢者みんながたのしめる行事があると関わりも深まるのではないかと思う。

5. 今自分がやれることがない（0件）

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（6件）

区役所管内

	年代	内容
1	40～44 歳	地域で支え合い、助け合うには限界があると思います。お互いが元気で”お互いさま”といいあえる関係性、健康状態、精神状態であれば常識的な事であれば可能かもしれませんが、お願いする人も、お願いされる人も遠慮があり、また特に自分の住まいの地域では人間関係でわずらわしいことにはまきこまれたくないという考えが若い方にはあると思います。活動するエリアをそのつど選べるようになると、少し離れたところがいい方も地元がいいという方も活動しやすくなるのではないのでしょうか。
2	50～54 歳	ご近所付き合いが無かろうが、1人暮らしだろうが誰もが利用しやすく情報も得られるようにしてほしい。
3	70～74 歳	マンションの暮らしは地域との関わり合いがあまりないので孤立しています。マンション管理組合が地域自治会に加入して情報を密に取るなどの方法でマンション住民にフィードするようなルートが必要かと思います。
4	75 歳以上	市の少子化と高齢化が両極をなし、行政は非常に難しいかじとりになっている。市民生活は地域活動に有るが、行政支援で市民が守られていると思う。一人暮らしの高齢者（生活保護）、子育て家族（子育て支援）等。市民の交流を通して互いの個人情報との交換が出来れば、より助け合う機会が増えるのではないかと思う。

生田出張所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	地域に住まわれている大人の方々の生活リズムやスタイルが異なる点があり過ぎて、簡単にシステムに参加できる状態ではないことも事実だと思えます。世代間毎の交流からスタートをし、交流の輪を広げていくのか、市や区毎で管理を強め交流をする場を設けていくのかをするようにしないと、なかなか進まないと思います。
2	60～64 歳	名称がよくない気がします。

8. 取組への期待について（5件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	“人に迷惑をかけたくない”と思い閉鎖的になる人も存在すると思うのでその人達が心を開ける環境が必要と思います。
2	20～24 歳	自らの健康管理をしっかり行えるような余裕のある社会ではないため、近隣住民を支えることまで意識することは難しい。自分以外のことに関心を持つことが出来るような人間は、時間又は経済的にある程度余裕があると考えられるが、本当に助けを必要としている人間は時間・経済ともに余裕がなく他者との交流をしている場合ではないと考えているのではないのでしょうか。
3	45～49 歳	関心なし。

生田出張所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	地域に住まわれている大人の方々の生活リズムやスタイルが異なる点があり過ぎて、簡単にシステムに参加できる状態ではないことも事実だと思います。世代間毎の交流からスタートをし、交流の輪を広げていくのか、市や区毎で管理を強め交流をする場を設けていくのかをするようにしないと、なかなか進まないと思います。
2	65～69 歳	高齢化が進めばさらに人間関係が希薄になるのでこのような活動は重要です。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（1件）

生田出張所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	在宅ケアサービスの充実を願う。地域医療。介護相談窓口の一元化。上記ネット上での情報開示。

11. 多世代や異属性間での交流について（0件）

12. 地域防災・防犯について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	60～64 歳	近隣の方々と適度に関わりを持っていくことはとても大切と思います。災害時などは他人事ではなく現実的な助け合い、支え合いが大切！自己の健康管理をしつつ他者に関心を向け自分にできることから行動に移していけたらと思います。

13. サービスや手続きについて（1件）

生田出張所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	在宅ケアサービスの充実を願う。地域医療。介護相談窓口の一元化。上記ネット上での情報開示。

14. 医療について（0件）

15. その他（8件）

区役所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	資源ごみはボランティアが行っているが、回収日数も少なく、回収場所も自宅から遠いため、資源ごみとして出すことができない。（特に雑誌、段ボール）普通ゴミやプラスチックごみと同様に市で回収してもらいたい。
2	35～39 歳	機会があれば行きたいが時間が無い。仕事と子育てで手いっぱいケアシステムの事も知らなかった。前ページの説明を読んだが、目標としていることが漠然としていて、何をしたいのか、何をすればよいのか、分からない。
3	35～39 歳	関心がない。申し訳ない。
4	35～39 歳	漠然としていて良くわからないです

	年代	内容
5	45～49 歳	問 45 の質問文が超高齢化社会の到来を見据えて、という前置きから入っているが、すでにその状態である。市の現状認識が違い。統計上の数字ではまだその段階でないと判断しているんだろうが市の職員は街中での実際の光景を認識すべき。働き世代が都心に行っている間の日中、街を杖や車いす、自立歩行できてもおぼつかない足取りで歩く高齢者の姿ばかり目立つ。5年、10年後はさらにそういう高齢者であふれることを考えた街づくりが必要だ。
6	70～74 歳	公園体操に参加していた頃、時々包括センターからの方がいらっしゃって簡単な話を聞いたのみであまりくわしくは知らない。その頃は自身があまり困っていることはなく年いってから（体が不自由になってから）相談する程度とっていた。元気なうちに、いろいろと勉強しておくのだったと反省している。
7	75 歳以上	遠い所が多く今の年齢ではつい億劫になってしまいます。自分で健康には心掛けていますが、認知症予防には思い出すことが脳を刺激と聞いたことを参考にこれからは高齢化が進み億劫なんて言わずに遠くても地域包括ケアシステムに行きたいと思いました。

生田出張所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	町内会に入っていないと、サービス受けられないとかにならないように望む。皆、税金おさめてきたんだから。Ex) ゴミ収集場つかわせないみたいに！

(4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	12
2. 市への意見	37
3. 地域住民とのつながりについて	10
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	5
5. 今自分がやれることはない	0
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	12
8. 取組への期待について	13
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	4
11. 地域防犯・防災について	1
12. サービスや手続きについて	4
13. 医療について	0
14. その他	14

1. 取組の周知について（12件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54歳	勤務先が都内のせいか都内の情報はよく耳にするが住んでいるところは全くと言っていい程耳にする機会がない（他2件）。
2	70～74歳	マンション住民にフィードするようなルートが必要かと思えます（他3件）。
3	70～74歳	川崎市に転入して3年余りになりますが、地域包括ケアシステムの名前を知りません。何故でしょうか。もしそういう市民が大勢いるならば是非考えてみてください（他2件）。

生田出張所管内

	年代	内容
1	45～49歳	全く知らない。どこで情報を公開しているのかも知らない。
2	70～74歳	地域包括ケアシステムの広報を積極的に行ってほしい。

2. 市への意見（37件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24歳	自らの健康管理をしっかり行えるような余裕のある社会ではないため、近隣住民を支えることまで意識することは難しい（他2件）。
2	25～29歳	普通ゴミ（特に雑誌、段ボール）やプラスチックごみと同様に市で回収してもらいたい（他2件）。
3	35～39歳	前ページの説明を読んだが、目標としていることが漠然としていて、何をしたいのか、何をすればよいのかが、分からない（他2件）。

	年代	内容
4	35～39 歳	漠然としている（他 2 件）。
5	45～49 歳	現場の状況がわからないのですが、人員が足りているのか、困っている事例があり、担当の方の疲弊はないか心配です（他 2 件）。
6	45～49 歳	市に関心がない（他 2 件）。
7	50～54 歳	住んでいるところは全くと言っていい程耳にする機会もなく調べてもよくわからない（他 2 件）。
8	55～59 歳	住民の特性を活用するため各年代や各職業から人選して参加を呼びかけるなど。川崎市内の企業と交流して、人材（出向などで）を得る←法人税軽減などの手で。
9	60～64 歳	これが 2 年に 1 度の役所の審査により介護度が下げられない事を願っています。地域包括システムとは直接関係なかったかもしれませんが、家族の願いとして書かさせていただきました（他 2 件）。
10	70～74 歳	市の広報紙を見たことがありませんが、それは自治会に入っていないからでしょうか。もしそうならそれも考えて下さい（他 2 件）。
11	70～74 歳	知らなかったので地域包括ケアシステムの勉強会はどこで学ぶのか知りたいです。
12	75 歳以上	市の少子化と高齢化が両極をなし、行政は非常に難しいかじとりになっている。市民生活は地域活動に有るが、行政支援で市民が守られていると思う（他 2 件）。

生田出張所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	町内会に入っていないと、サービス受けられないことにならないように望む。
2	65～69 歳	ネット上での情報開示（他 3 件）。

3. 地域住民とのつながりについて（10 件）

区役所管内

	年代	内容
1	70～74 歳	マンションの暮らしは地域との関わり合いがあまりないので孤立しています（他 3 件）。

生田出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	このような地域活動は重要です（他 2 件）。
2	65～69 歳	最近は何覧板なども減ってきているので隣人との関わりが減っている。若者たちは SNS が日常の一部になっているので、情報が SNS で知れると良いなと思った（他 2 件）。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（5件）

区役所管内

	年代	内容
1	30～34 歳	近隣住民との交流や各種イベントがいつどこで行なわれるか、わかりやすく案内してほしいです。また、平日仕事をしているので、土日や祝日でないと参加はできません。
2	60～64 歳	ウィークデーの活動については仕事で参加できないし、やっても早い時間のみ（例えば午後 5:00 など）で、ウィークデー含め夜の説明会など仕事の後で参加できる説明会など若い世代の参加可能な時間帯が必要。

生田出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	地域で運動会やおもちつき大会など子どもから大人、高齢者みんながたのしめる行事があると関わりも深まるのではないかと思う（他2件）。

5. 今自分がやれることはない（0件）

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（12件）

区役所管内

	年代	内容
1	40～44 歳	地域で支え合い、助け合うには限界があると思います。お互いが元気で”お互いさま”といいあえる関係性、健康状態、精神状態であれば常識的な事であれば可能かもしれませんが、お願いする人も、お願いされる人も遠慮があり、また特に自分の住まいの地域では人間関係でわずらわしいことにはまきこまれたくないという考えが若い方にはあると思います。活動するエリアをそのつど選べるようになると、少し離れたところがいい方も地元がいいという方も活動しやすくなるのではないのでしょうか。
2	50～54 歳	ご近所付き合いが無かろうが、1人暮らしだろうが誰もが利用しやすく情報も得られるようにしてほしい。
3	70～74 歳	マンション管理組合が地域自治会に加入して情報を密に取るなどの方法でマンション住民にフィードするようなルートが必要かと思います（他2件）。
4	75 歳以上	一人暮らしの高齢者（生活保護）、子育て家族（子育て支援）等。市民の交流を通して互いの個人情報の交換が出来れば、より助け合う機会が増えるのではないかと思う（他2件）。

生田出張所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	世代間毎の交流からスタートをし、交流の輪を広げていくのか、市や区毎で管理を強め交流をする場を設けていくのかをするようにしないと、なかなか進まないと思います（他2件）。
2	60～64 歳	名称がよくない気がします。

8. 取組への期待について（13件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	“人に迷惑をかけたくない”と思い閉鎖的になる人も存在すると思うのでその人達が心を開ける環境が必要と思います。
2	20～24 歳	自分以外のことに関心を持つことが出来るような人間は、時間又は経済的にある程度余裕があると考えられるが、本当に助けを必要としている人間は時間・経済ともに余裕がなく他者との交流をしている場合ではないと考えているのではないのでしょうか（他2件）。
3	45～49 歳	取り組みに関心なし（他2件）。

生田出張所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	世代間毎の交流からスタートをし、交流の輪を広げていくのか、市や区毎で管理を強め交流をする場を設けていくのかをするようにしないと、なかなか進まないと思います（他2件）。
2	65～69 歳	高齢化が進めばさらに人間関係が希薄になるのでこのような活動は重要です（他2件）。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（4件）

生田出張所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	介護相談窓口の一元化（他3件）。

11. 地域防犯・防災について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	60～64 歳	近隣の方々と適度に関わりを持っていくことはとても大切だと思います。災害時などは他人事ではなく現実的な助け合い、支え合いが大切！自己の健康管理をしつつ他者に関心を向け自分にできることから行動に移していけたらと思います。

12. サービスや手続きについて（4件）

生田出張所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	在宅ケアサービスの充実を願う（他3件）。

13. 医療について（0件）

14. その他（14件）

区役所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	資源ごみはボランティアが行っているが、回収日数も少なく、回収場所も自宅から遠いため、資源ごみとして出すことができない。（特に雑誌、段ボール）普通ゴミやプラスチックごみと同様に市で回収してもらいたい。
2	35～39 歳	機会があれば行きたいが時間が無い。仕事と子育てで手いっぱいケアシステムの事も知らなかった。前ページの説明を読んだが、目標としていることが漠然としていて、何をしたいのか、何をすればよいのかが、分からない。
3	35～39 歳	関心がない。申し訳ない。
4	35～39 歳	良くわかりません（他2件）。
5	45～49 歳	現場の状況がわからないのですが、人員が足りているのか、困っている事例があり、担当の方の疲弊はないか心配です。また、高齢者には自分の生活や家に入ってほしくないと考えている方（他人が家にくる不安）がいます（他2件）。
6	70～74 歳	公園体操に参加していた頃、時々包括センターからの方がいらっしゃって簡単な話を聞いたのみであまりくわしくは知らない。その頃は自身があまり困っていることはなく年いってから（体が不自由になってから）相談する程度と思っていた。元気なうちに、いろいろと勉強しておくのだったと反省している。
7	75 歳以上	遠い所が多く今の年齢ではつい億劫になってしまいます。自分で健康には心掛けていますが認知症予防には思い出すことが脳を刺激と聞いたことは参考にこれからは高齢化が進み億劫なんて言わずに遠くても地域包括ケアシステムに行きたいと思いました。

生田出張所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	町内会への入会がなくてもサービスを受けたい（他2件）。

資料

アンケート調査票

地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の20歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月 川崎市長 福田 紀彦

【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月20日（金）まで**にポストに投函してください。

【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

■お問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

【最初に、あなたご本人やご家族のことについておたずねします】

問1 性別を教えてください。(1つに〇)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに〇)

1. 20~24歳	5. 40~44歳	9. 60~64歳
2. 25~29歳	6. 45~49歳	10. 65~69歳
3. 30~34歳	7. 50~54歳	11. 70~74歳
4. 35~39歳	8. 55~59歳	12. 75歳以上

問3 お住まいはどこですか。(1つに〇)

1. 川崎区(区役所管内)	7. 高津区(区役所管内)
2. 川崎区(大師支所管内)	8. 高津区(橋出張所管内)
3. 川崎区(田島支所管内)	9. 宮前区(区役所管内)
4. 幸区(区役所管内)	10. 宮前区(向丘出張所管内)
5. 幸区(日吉出張所管内)	11. 多摩区(区役所管内)
6. 中原区	12. 多摩区(生田出張所管内)
	13. 麻生区

問4 お住まいの町名をご記入ください。

※〇丁目と続く場合は数字を【 】に記入してください。

町名		丁目	【 】丁目
----	--	----	----------------------------

問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに〇)

1. 1年未満	3. 3~5年未満	5. 10~20年未満
2. 1~3年未満	4. 5~10年未満	6. 20年以上

問6 現在のお住まいの形態を教えてください。(1つに〇)

1. 持ち家(一戸建て)	4. 借家(マンション・アパート・公団・下宿等)
2. 持ち家(マンション・団地)	5. 社宅・寮・公務員住宅
3. 借家(一戸建て)	6. その他()

問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 祖父母	5. 兄弟姉妹	9. いない(一人暮らし)
2. 父	6. 子	10. その他
3. 母	7. 孫	()
4. 配偶者	8. その他親族	

問8 一緒に暮らしているご家族(あなたを含む)のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の中に65歳以上の方がいる
2. 家族の中に介護認定を受けている方がいる
3. 家族の中に障害者手帳(身体・療育・精神保健福祉)の交付を受けている方がいる
4. 家族の中に小学校就学前の子どもがいる
5. 家族の中に小学生の子どもがいる
6. 家族の中に中学生以上の18歳未満の子どもがいる
7. いずれにも該当する家族がいない

問9 就業の状況はどれに該当しますか。(ア及びイまたはウそれぞれ1つに○)

ア 就業状況

1. 就業している
2. 就業していない

イ 就業形態

1. 常勤・フルタイム
2. パート・アルバイト(通勤あり)
3. パート・アルバイト(通勤なし、内職等)
4. その他()

ウ 就業していない理由

1. 家事専業等	3. 学 生
2. 定年退職者	4. その他()

問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

1. 非常に健康
2. ほぼ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない

問11 あなたは現在、健康上の問題で6か月以上の期間にわたり、日常生活に何か影響がありますか。(1つに○)

- | |
|-------------------|
| 1. ある (→問11-1へ進む) |
| 2. ない |

《問11-1は、問11で「1. ある」とお答えの方におたずねします》

問11-1 それはどのようなことに影響がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 日常生活動作(起床、衣服着脱、食事、入浴など)に影響がある |
| 2. 外出(時間や作業量などが制限される)に影響がある |
| 3. 仕事、家事(時間や作業量が制限される)に影響がある |
| 4. 運動(スポーツを含む)に影響がある |
| 5. その他() |

【「川崎市地域福祉計画」についておたずねします】

川崎市では、川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築をめざして、平成30年3月に「市民一人ひとりが共に支え合い安心して暮らせる ふるさとづくり」を基本理念とする『第5期川崎市地域福祉計画』及び7つの区で『区地域福祉計画』を策定しました。

地域福祉計画は、それぞれの生活の拠点である地域において、共に生きるまちづくりの精神を発揮して、市民と行政がともに地域社会の生活課題の解決に取り組むことにより、誰もが安心していきいきと健やかに暮らせるような地域社会をつくることを目的としています。

また、“地域福祉”とは、こうした地域社会をつくりあげていくための市民や行政の取り組みと言えます。

問12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 市の計画、区の計画の両方を知っている |
| 2. 区の計画は知らないが、市の計画は知っている |
| 3. 市の計画は知らないが、区の計画は知っている |
| 4. 市の計画も区の計画も知らない (→問13へ進む) |

《問12-1は、問12で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 市政だより | 6. 交流会・ワークショップ |
| 2. 市や区のホームページ | 7. シンポジウム |
| 3. チラシ・パンフレット | 8. 講演・講習会 |
| 4. 市や区の計画での取り組みに参加した | 9. 口コミ(友人・知人や近隣の方からの) |
| 5. 団体等の会合 | 10. その他() |

【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

[問13以降は全員の方がお答えください]

問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 両隣 |
| 2. 向こう三軒両隣程度 |
| 3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど) |
| 4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度 |
| 5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度 |
| 6. その他() |

問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | 4. あいさつをする程度 |
| 2. 家に行き来したり、親しく話をする | 5. ほとんどつきあいが無い |
| 3. ときどき話をする程度 | 6. その他() |

問15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ない |
| 7. その他() |

問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 加入している | (→ 問17へ進む) |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない | (→ 問16-1へ進む) |

《問16-1は、問16で「2. 加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方におたずねします》

問16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 行事に参加できない |
| 2. きっかけがない |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい |
| 7. 会費に見合うメリットがない |
| 8. 加入の仕方がわからない |
| 9. 面倒だから |
| 10. 関心がない |
| 11. その他 () |

[問17以降は全員の方がお答えください]

問17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 隣近所程度 | 4. 中学校区程度 | 7. それ以上 |
| 2. 町内会・自治会程度 | 5. お住まいの区内程度 | 8. その他 |
| 3. 小学校区程度 | 6. 川崎市内程度 | () |

問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 健康づくりに関する問題(ストレス、食育、生活習慣病など)2. 高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)3. 障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など)4. 子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)5. 地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)6. 地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)7. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題9. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題10. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない(足りない)という問題11. その他()12. 特に問題だと感じていることはない(→ 問19へ進む) |
|--|

《問18-1は、問18で「1」～「11」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。事例などがあれば教えてください。

----- -----

[問19以降は全員の方がお答えください]

問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない3. 経済的に生活できるか不安である4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない5. 子育てがうまくできるか不安である6. その他() |
|---|

問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 身近でいつでも相談できるところがあること |
| 2. 保健や福祉のサービスの利用料が低額であること |
| 3. 保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること |
| 4. 緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること |
| 5. 利用できる保健や福祉のサービスの種類がたくさんあること |
| 6. 保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること |
| 7. 保健や福祉のサービスの質を評価した情報があること |
| 8. その他 () |
| 9. 特に何も必要だとは思わない |

問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族 | 8. 地域包括支援センター等専門相談機関 |
| 2. 友人・知人 | 9. 民生委員児童委員 |
| 3. 離れて暮らしている家族 | 10. 社会福祉協議会 |
| 4. 区役所地域みまもり支援センターの職員 | 11. 民間の相談機関(電話相談を含む) |
| 5. かかりつけの医療機関 | 12. インターネット |
| 6. 近所の人 | 13. その他 () |
| 7. 福祉施設やサービス提供事業所の職員 | 14. 相談する人はいるが、誰にも相談しない |
| | 15. 相談する人がいない |

問22 あなたには、友人と呼べる人がいますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. いる (→ 問22-1へ進む) | 2. いない (→ 問23へ進む) |
|--------------------|-------------------|

《問22-1、問22-2は、問22で「1. いる」とお答えの方におたずねします》

問22-1 何人くらいいますか。

人

問22-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。

(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

[問23以降は全員の方がお答えください]

問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 親 族 | 8. 区役所・市役所 |
| 2. 友人・知人 | 9. 地域の医療機関 |
| 3. 近所の人 | 10. ケアマネジャーやホームヘルパー等 |
| 4. 民生委員児童委員 | 11. その他() |
| 5. 社会福祉協議会 | 12. 誰もいない |
| 6. 地域の活動団体 | 13. 頼みたくない |
| 7. NPO等の民間団体 | |

問24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない

問27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○)

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他 ()

問28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いませんか。(1つに○)

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他 ()

問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経済的に困窮している（お金がない）こと
2. 福祉や見守りなど行政の対応が不十分なこと
3. 地域の見守り体制が弱体化してきたこと
4. 一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
5. 本人が引きこもりがちな性格であること
6. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
7. 家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと
8. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること
9. その他（）
10. 特に問題はない
11. わからない

問30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有
3. 民生委員児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 地域で気軽に集えるサロン活動
8. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
9. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
10. 本人からの危険危機の通報
11. 機器による緊急通報システム
12. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
13. その他（）
14. 特にない
15. わからない

【地域活動やボランティア活動についておたずねします】

問31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する活動
2. 高齢者に関する活動
3. 障害児・者に関する活動
4. 子育てに関する活動
5. 医療に関する活動
6. 町内会・自治会に関する活動
7. 社会福祉協議会に関する活動
8. お祭りやイベントに関する活動
9. 地域安全に関する活動
10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動
11. 文化・芸術に関する活動
12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動
13. その他()
14. 今は参加していないが条件が整えば参加したい (→問31-2～問31-5へ進む)
15. 参加したことがない (→問31-6～問31-7へ進む)

[問31で「1」～「13」のいずれかをお答えの方は問31-1に、
問31で「14」とお答えの方は問31-2～問31-5に、
問31で「15」とお答えの方は問31-6にそれぞれ進んでください]

《問31-1は、問31で「1」～「13」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問31-1 活動に参加した動機やきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 人の役に立ちたいから
2. 自分たちのために必要な活動だから
3. 家族・友人・知人から誘われたから
4. 学校の授業などで機会があったから
5. 困っている人や団体から頼まれたから
6. 余暇を有効に活用したいから
7. 趣味や特技を活かしたいから
8. 楽しそうだから
9. つきあいのため、やむを得ず
10. その他()
11. なんとなく

《問31-2～問30-5は、問31で「14」とお答えの方におたずねします》

問31-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する活動	8. お祭りやイベントに関する活動
2. 高齢者に関する活動	9. 地域安全に関する活動
3. 障害児・者に関する活動	10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動
4. 子育てに関する活動	11. 文化・芸術に関する活動
5. 医療に関する活動	12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動
6. 町内会・自治会に関する活動	13. その他()
7. 社会福祉協議会に関する活動	14. 具体的にはわからない

問31-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

問31-4 参加される場合、活動可能な日はどのくらいですか。(1つに○)

1. 週3回以上	3. 月2～3回	5. 月1回未満
2. 週1～2回	4. 月1回	

問31-5 参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。(1つに○)

1. 平日日中(10時～17時)2時間以内	5. 休日日中2時間以内
2. 平日日中4時間以内	6. 休日日中4時間以内
3. 平日日中6時間以内	7. 休日日中6時間以内
4. 平日夜間(17時～20時)	8. 休日夜間(17時～20時)

《問31-6～問31-7は、問31で「15」とお答えの方におたずねします》

問31-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事や家事が忙しく時間がない	8. 一度は始めると拘束されてしまう
2. きっかけがつかめない	9. 行政や事業者が行えばよい
3. 身近に活動グループや仲間がない(知らない)	10. 人と接するのが苦手
4. 健康に自信がない	11. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られない	12. その他()
6. 興味を持てる活動がない	13. 特に理由はない
7. 育児や介護を必要とする家族がいる	

問31-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 活動する時間ができれば	6. 興味を持てる活動があれば
2. きっかけがあれば	7. ボランティア活動に参加している ことが評価されるようになれば
3. 身近に活動グループや仲間がいれば	8. その他()
4. 体力や健康に自信があれば	9. 地域活動やボランティア活動は したくない
5. 家族や職場の理解が得られれば	

【保健・福祉に関することについておたずねします】

[問32以降は全員の方がお答えください]

問32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。(ア～チの団体・施設等について1・2のいずれか1つに○)

ア. 社会福祉協議会	1. 知っている	2. 知らない
イ. 民生委員児童委員	1. 知っている	2. 知らない
ウ. 区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	1. 知っている	2. 知らない
エ. 地域包括支援センター	1. 知っている	2. 知らない
オ. 老人クラブ	1. 知っている	2. 知らない
カ. いきいきセンター(老人福祉センター)	1. 知っている	2. 知らない
キ. いこいの家(老人いこいの家)	1. 知っている	2. 知らない
ク. 障害者相談支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ケ. 地域療育センター	1. 知っている	2. 知らない
コ. 地域リハビリテーションセンター	1. 知っている	2. 知らない
サ. 聴覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
シ. 視覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
ス. 児童相談所	1. 知っている	2. 知らない
セ. 地域子育て支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ソ. こども文化センター	1. 知っている	2. 知らない
タ. 福祉パル(区社会福祉協議会)	1. 知っている	2. 知らない
チ. 総合福祉センター(エポックなかはら)	1. 知っている	2. 知らない

問33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 名前も活動内容も知っている | |
| 2. 名前を知っており、活動内容も少しは知っている | |
| 3. 名前は知っているが、活動内容は知らない | } (→問34へ進む) |
| 4. 名前も活動内容も知らない | |

《問33-1は、問33で「1」または「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実 | 6. 住民懇談会等の小地域活動の促進 |
| 2. 子育て支援の充実 | 7. NPOやボランティアグループへの支援 |
| 3. ボランティア活動の促進 | 8. 福祉関係団体の活動支援 |
| 4. 各種福祉講座・教室の開催 | 9. その他() |
| 5. 身近な相談の場としての機能強化 | 10. 特にない |

[問34以降は全員の方がお答えください]

問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. 市の広報 | 8. 町内会・自治会の回覧板 |
| 2. インターネットのホームページ | 9. 友人・知人 |
| 3. チラシ・パンフレット | 10. 学校 |
| 4. 新聞・テレビ | 11. 近隣 |
| 5. 民生委員児童委員 | 12. 団体等の広報紙等 |
| 6. 社会福祉協議会 | 13. その他() |
| 7. 区役所地域みまもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所) | |

問35 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 3. 週に1日程度 | 5. ほとんどない |
| 2. 週に2～3日程度 | 4. 月に数日程度 | |

【東日本大震災後の意識の変化についておたずねします】

問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災意識が高まった
2. 節電意識が高まった
3. 家族の絆の大切さを認識した
4. 地域の絆の大切さを認識した
5. 友人等との絆の大切さを認識した
6. 健康意識が高まった
7. 避難場所確保の必要性を感じた
8. 正しい情報を得ることの必要性を感じた
9. その他 ()
10. 特にない

問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 建物の補強
3. 家具の固定
4. 停電時の対策
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
7. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
8. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
9. 隣近所の人へのあいさつや声かけ
10. 地域で主体的に防災につながる活動を行った
11. 防災訓練への参加
12. ボランティア活動への参加
13. その他 ()
14. 特にない

問 38 東日本大震災から 8 年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

1. 現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している
2. 震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている
3. 震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している
4. 震災直後も現在も、防災などへの備えを特に意識していない
5. その他 ()
6. わからない

問39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報共有・活用すべき
2. 見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報共有・活用してもよい
3. 見守りや防災・防犯のためであっても、個人情報共有・活用しないほうがよい
4. わからない

問40 あなたは次の情報のうち、『ふだんの見守り活動』のためだとしても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他 () |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特になし |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

問41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 現住所、電話番号	11. 電話や電子メールなどの通信履歴
2. 会社、学校等の連絡先	12. 病歴、身体の障害など
3. 緊急時の親族等の連絡先	13. かかりつけ医、服薬、障害の程度
4. メールアドレス	14. 介護保険の要介護度
5. 出生地	15. 福祉サービスの利用状況
6. 生年月日、年齢	16. 健康保険証の記号番号
7. 血液型	17. その他()
8. 顔写真などの画像	18. 特にない
9. 家族構成	19. わからない
10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無	

【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること
2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと
3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること
4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること
5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと
6. その他()
7. 特に取り組むべきことはない

問43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握
2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり
3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成
4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示
5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実
6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供
7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化
8. その他()

問44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座 |
| 2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座 |
| 3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座 |
| 4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座 |
| 5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座 |
| 6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座 |
| 7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座 |
| 8. 先進的な取り組み事例が学べる講座 |
| 9. その他 () |
| 10. 特になし |

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく手法

問45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

- | |
|---|
| 1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している |
| 2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない |
| 3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない |
| 4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない |
| 5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない |

} (→問 45-1 へ進む)

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。

《問45-1は、問45で「3」～「5」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問45-1 地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。

このような行動を行っていますか。行っている場合、かっこ内にあなたが行っている取組等についてお書きください。

1. 定期的に行っている（	）
2. たまに行っている（	）
3. 行っていないが、機会があれば行いたい	
4. 行っていないし、関心もない	

問46 「地域包括ケアシステム」の取組等について、御意見があればお書きください。

問47 最後に、『川崎市地域福祉計画』または『区地域福祉計画』に対するご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

12月20日（金）までにお近くのポストに投函してください。

第5回川崎市地域福祉実態調査 結果概要（多摩区版）

令和2年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626（直通） FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp
